

マーク・ディヴァー 著

「神の栄光の現れ、

教会構造の基本；執事、長老、会衆主義と教会籍（メンバーシップ）。」

の全訳

Dever, Mark.E.,

A DISPLAY of GOD'S GLORY,

BASICS OF CHURCH STRUCTURE:Deacons,Elders,Congregationalism &

Membership.Washington,D.C. Center for Church Reform/9 Marks

Ministries.2001.p1 - 61

目次

導入	2 - 4
第 1 章 - 執事	5 - 15
第 2 章 - 長老	16 - 29
第 3 章 - 会衆主義	30 - 43
第 4 章 - 教会籍（メンバーシップ）	44 - 56
結論	57 - 62

※本文の聖書引用は全て、新改訳聖書（3版）による。

導入

私が中学2年生（8年生）の時に書いた作文の中で、「政体（polity）」という単語を使ったところ、当時24歳だった私の英語教師がその単語を丸で囲み、間違いだと指摘した時のことを今でも覚えています。それは、少年の愉快さから、私は彼女のところに辞書を持って行き、該当箇所を開き、彼女にその意味を読み聞かせました。それは、「物事を管理するための組織、特に公の事柄；政府」のような意味でした。政体とは、つまり、管理、組織、統治、そして権威の構造の意味があるのです。

キリスト者として私たちは、自分の生活が聖書の教えの上に築かれるよう努力します。にもかかわらず、次の質問を尋ねなければなりません。聖書は、教会の政体や組織についての質問を明らかに取り扱っているのでしょうか？もし答えが「はい」ならば、では聖書はどのように教えているのでしょうか。勿論、私たちキリスト者は、説教や戒規、私たちの霊性とキリストに従う喜び、そして教会成長と私たちの福音宣教の理解について、聖書の十全性を信じています。しかし、聖書は、私たちが教会でキリスト者として共に生きることについて、いかに組織立てればよいのかについても語っているのでしょうか？それとも単純に、最善の方法を調べるよう私たちに委ねられているのでしょうか？私たちの教会組織はどうでもよい事柄なののでしょうか？そのことは、最もふさわしく機能し最も効果的に問題を避けるようなことなら何でもいい、という単なる実用主義を基礎にして決められるべきことなののでしょうか？

私は、私たちが神を愛し彼に仕えるために知るべきすべてのことは、神ご自身がみことばを通して啓示しておられ、教会の組織についてさえも、私たちが知るべきことを含んでいると信じます。団体としての教会生活に対する聖書の十全性は、過去においてバプテスト派や会衆派、長老派や他の多くの教派の信仰告白の中に含まれており、神が聖職者として召し出された人たちによっても考えられてきました。ここ

で明確にしておきたいのは、私たちが教会の組織は新約聖書の中に見つけることができると言う時、それは自分たちの慣行の正しさを仮定し、そのことを正当化する聖書的根拠を捜すという意味ではありません。むしろ、私たちの目標は、聖書にその答えを求め、そこで教えられているいくつかの構造や組織の基本的な見方を認識し、聖書の教えに従って教会形成をなすべき点にあるのです。

新約聖書は、初期のキリスト者たちがいかにして彼らの教会を構成していたかの例で満ちています。ある箇所には、明白な団体としての会合や(使徒 20:7;ヘブル 10:25)、選挙(使徒 1:23-26;6:5-6)、役員(例:ピリピ 1:1;使徒 20:17,28)、戒規の例(I コリント 5 章)、献金(ローマ 15:26;I コリント 16:1-2)、推薦状(使徒 18:27;II コリント 3:1)、儀式の運営(使徒 2:41;I コリント 11:23-26)、と教会の教会籍の資格(マタイ 28:19;使徒 2:47)について記されています。明らかに、神は教会の共同生活と構造について多くの見方の方向を、みことばの中に与えてくださっているのです。

神がそのようにされていることは、なんと素晴らしいことでしょう！神のみことばが、私たちの共同生活や教会組織についてさえも規定されていると確信することは、最近の流行である専制政治から私たちを自由にします。今日幾人かの牧師たちは、聖歌隊や委員会は必ず持つべきであり、説教は単にしても差し支えないことと考えます(もし私たちのビデオ・ミニストリーがすでにそのタイム・スポットを満たすと考えていないなら)。または教会の教会籍を導入しても差し支えないとも考えます(もし私たちが他になすべき独創的なことを考えられなければの話ですが)。神のことばは、教会についての私たちの考えを再統合してくれます。私たちは、聖書は私たちの指導について明確なパラメーターを設計してくれます(それらのパラメーターの内に柔軟性はありますが)。私たちは、説教と教会籍がなくてはならないこと、そして聖歌隊や委員会はあってもいいことを学び始めていくことにします。

ジョン・ドラグ(John L.Dagg、1794年から1884年)は、次のよう

に記しています。

教会の秩序と宗教の儀式は、新しい心に比べたら、さほど重要ではありません。いくつかを考慮して、それらを尊重してなされる骨の折れる質問のいかなる調査も不必要で無駄なように思えます。しかし私たちが聖書から分かっていること。それはキリストがこれらの事柄に命令を与え、私たちは従うしかないということなのです。愛は私たちが服従するように促がします。そして愛は、神の意思を確かめる必要があるような調査を喚起します。それゆえに、私たちの前におかれた研究を、熱い祈りによって遂行しようではありませんか。すべての真理へと導いてくださる聖霊が、私たちが最上に愛し崇拝する神のみこころを学ぶ助けをしてくださるのです。

(Manual of Church Order, p.12)

このことを認識することで、私たちは教会の組織についての多くの中心的な見方について、聖書の教えをよりよく考慮することができるでしょう。ここで多くの質問が考慮されるべきですが、私は教会組織の最も基本となる4つの事柄、執事、長老、会衆主義と教会の会員籍について、聖書は明確に何を教えているかに焦点をあわせたいと思います。神が私たちの試みを用いてくださり、教会で共に生きるとはどういうことなのかについて、神の意図を理解する助けを与えてくださいますように。

1章 執事

まず初めに、今日の地域教会において最も馴染みのある職務の一つ、執事について見ていきます。あなたがどのような背景の教会から来ているのかによりますが、「執事」の単語から想起させるものとして、特別にあてがわれた教会の特別室にある長く磨き上げられた机の周りに座る、白髪交じりの銀行マンのイメージをもっているかもしれません。あるいは、そのことばが、教会の必要から来る働きの調整や福音的な伝道の働き、又は牧会的な配慮など教会の熱心な奉仕者を思い浮かべるかもしれません。後者がまさに私たちの教会における執事なのです。それでは聖書における執事とは何でしょうか？

I 「執事」の定義

「執事」が仕えることという意味において、新約聖書の世界における理解は私たちのものと似ていました。他者に仕えるということは、ギリシャ人にとっては称賛されるべきことではありませんでした。かえって、彼らは自尊心を常に維持することに目を配り、自分自身の人格や性格の発展を称賛しました。他者への執事的な奉仕は、「奴隷のような」という軽蔑語によって表現される類のものに見なされていたのです。

しかしながら聖書は、奉仕をまったく別に描いています。新約聖書の現代的な訳によれば、ディアコノスという単語は、通常「奉仕者」と訳され、時には「しもべ・牧師」、そして時には単に字音的に「執事」と訳出されています。それは、一般的な奉仕に言及したり（例：使徒 1:17、25、19:22；ローマ.12:7；I コリ.12:5；16:15；エペ.4:12；コロ.4:17；2 テモ.1:18；ピレモン 13；ヘブ.6:10；I ペテ 4:10-11；黙示.2:19）、特に支配者として（例：ローマ.13:4）、又は物質的な必要への配慮として述べられています（例：マタイ.25:44；使徒.11:29；12:25；ローマ 15:25,31；I コリ.8:4,19-20；9:1,12-13；11:8）。新約聖書において明らかなのは、女性が少なくともこれらの務めのいくつかをする

ことができる、ということです（例：マタイ 8:15；マルコ 1:31；ルカ 4:39；マタイ 27:55；マルコ 15:41；参照ルカ 8:3；ルカ 10:40；ヨハネ 12:2；ローマ 16:1）。天使はこのように仕えます（例：マタイ 4:11；マルコ 1:13）。ときどきそれは、特に給仕のテーブルに言及され（例：マタイ 22:13；ルカ 10:40；17:8；ヨハネ 2:5,9；12:2）、ギリシャ世界においては、そのような務めは軽蔑の対象であったにもかかわらず、イエスはそれを異なるものとして尊重しました。ヨハネ 12 章 26 節でイエスは「わたしに仕えるというなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます」と言われました。マタイ 20 章 26 節でも再び（参照：マルコ 9:35）イエスは「偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい」と述べています。そしてマタイ 23 章 11 節で（参照：マルコ 10:43；ルカ 22:26-27）彼は「あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません」と言っています。

実際に、イエスは自分自身を執事の典型として紹介してさえいます（例：マタイ 20:28；マルコ 10:45；ルカ 22:26-27；参照ヨハネ 13；ルカ 12:37；ローマ 15:8）。キリスト者はキリスト、または彼の福音に仕える者となるように描かれています。そのことは使徒たちがどのように描写されたか（使徒 6:1-7）、又パウロは自分自身や彼と共に働いた人々についても確かに言及しています（例：使徒 20:24；I コリ 3:5；2 コリ 3:3,6-9；4:1；5:18；6:3-4；11:23；エペソ 3:7；コロ 1:23；I テモ 1:12；II テモ 4:11）。彼は自分自身のことを、自分が特に仕えるよう召された特定の群れである異邦人の間のしもべであると述べています（使徒 21:19；ローマ 11:13）。パウロはテモテをキリストの奉仕者と呼び（例：I テモテ 4:6；II テモテ 4:5）、ペテロは旧約聖書の預言者たちは、私たちキリスト者にとって奉仕であったと言っています（I ペテロ 1:12）。御使いは仕える霊と呼ばれており（ヘブル 1:14）、サタンさえも彼らのしもべが存在すると記されています（II コリ 3:6-9；

11:15 ; ガラ 2:17)。

私たちは執事と長老の務めの間に常に明確な区別を維持する必要があります。長老と執事はある意味において共に「仕える」ことに係わり合いますが、その二つの務めはまったく異なる形式をとるのです。私たちが重要と考える使徒 6 章の 7 節において、務めが伝統的な務め（テーブルでの給仕、物質的奉仕）と使徒たち（と後になって、長老）に託された御言葉の「務め」の種類に分けられているのを見ることができます。使徒 6 章で述べられている執事は、少なくとも管理的な意味において、教会のウェイターのようなと言えます。彼らは教会の物質的な必要を配慮するようにと召されています。そしてこの特定の務めのためにグループを形成することは重要です。なぜならそのようにしないことが、結果として二つの種類の務め—御言葉（長老）とテーブル（執事）—を互いに混乱させ、どちらかひとつが忘れられてしまうからです。教会は、御言葉の宣べ伝えることも、教会の一致を促進する助けと共に、私たちの互いに愛し合うという務めを満たす働きをする教会員への実際的な配慮の両方とも疎かにしてはいけません。これら教会生活と働きの両方ともに重要なのです。教会において両方の務めがなされるために、私たちは執事の務めを長老のそれと区別すべきなのです。

II. 歴史的背景

使徒の時代の間、複数長老性や複数執事性は十分安定していたにもかかわらず、諸教会における状況はかなり流動的でした。新約聖書のすぐ後の時代には、長老と執事それぞれ別々の職務が継続しました。長老の役割は、主教と祭司の間に区別ができ始めましたが、しかし執事職は継続して、常に監督や祭司と一緒にかその後に加えられ、主教又は監督を補助する重要な仕事を課せられた者としていつも見られていました。初代教会においては、その職務は一般的に生涯にわたって負わされてきました。しかしながらその職務の役割は、場所によって変

わかりました。執事的職務には次のようなものが含まれます：

- 教会における聖書朗読と賛美
- 献金の受領、誰が捧げたかの記録
- 監督、長老や自分たち自身、未婚女性ややもめ、そして貧しい者への捧げ物の分配
- 聖餐の分餐
- 礼拝中の祈りを導き、そして儀式が執行される前に聖餐を受けない者に去るように合図を与える

以上は、2世紀から6世紀にかけての執事の職務のおおよその要約です。

君主的監督職が発展するに従い、君主的執事職のようなものが下方へと追いやられました。監督の役割が発展するに従い、副監督の役割も発展しました。副監督は、特定の場所における執事の長であり、物質的な事柄に関係のある代理人として描写されていました。ローマの副監督が、特に重要であったことは驚くに値しないことです。悪用がはびこり、執事と特に副監督が大変裕福になったと言えれば十分です。他者に仕えるべき者が、かえって自分の欲望に仕えるために他者を利用するとは、なんと皮肉なことでしょうか。数多くの理由から、執事の影響力は中世になって減少しました。貧しい者の世話をすることが、寄付者にとっては神からの栄誉を得るための手段となり、また煉獄での彼らの時間を減らすことを彼らは思いついたのでした。

東方正教会はその能力において仕える一般信徒として、常に執事を分けていました。しかしながら西方教会において中世後期までは、執事になるとは単に祭司、すなわち長老として任命される途中のステップであったのです。ローマ・カトリック教会と監督派の諸教会における執事はまさしく一人前の祭司になる前一年間執事として奉仕をした見習い牧師のようでした。第二バチカン会議は、ローマ・カトリック教会における恒久的で異なるより聖書的な執事職の可能性を再び開きました。

ルター派教会は、新約聖書の執事の考えを取り戻すことはありませんでしたが、ルターは教会の物質的な必要、特に貧しい人々を教会が世話をする責任について取り戻しました。今日のルター派の教会においては、慣例は変化しています。いくつかの所では、執事は任命されないままであり、他の場所においては、誰であつても補牧師で特に牧会的配慮と伝道に責任をもつ者は、執事と呼ばれています。

宗教改革の間、より福音的なプロテスタントの多くの教会では、聖書的な慣例としての執事と長老や牧師との区別が認識されてきました。宗教改革の時代において、何人かのプロテスタントは、例えばケンブリッジのマーティン・ブットザー（Martin Butzer）は執事の職務を再建すべきであると主張しました。彼らが言うには、執事はそれぞれの教会において、援助を受けるに価する者とそうでない者とを区別し、独立した調査を実施し、ひそかに援助の必要な者をお世話して、他の者を教会から追放していたというのです。彼らはもし可能であるならば、教会員によって捧げられた寄金の書き記された記録を保持すべきでした。

監督派の教会において、執事は施し物を管理し貧しい者や病気の者（これらの役目が大部分この世の政府に引き継がれてきてはいますが）の世話をする者のことです。執事は長老とは別の群れであり、彼らに対して責任を負っています。これは多くのバプテスト派と会衆派の教会が、かつて組織化したやり方です。いくつかの教会はいまだにこのやり方で組織化されており、多くの教会は、少なくともある程度は、この構造を維持しています。

しかしながら多くのバプテスト派と会衆派教会においては、より明確な霊的役割が執事に命じられています。彼らは様々な方法で牧師を助け、特に主の晩餐において、パンとぶどう酒を分餐し、長老会がなくなってしまった教会においては、教会の役員や財務委員会のように発展してきました。ある人が執事としてその職務に認識される時、通常は終身と考えられていますが、執事はしばしば期間限定で活発に奉

仕をしています。

これがキリスト者がしていることなのです。では今、私たちの慣例を改革するために、聖書は私たちに対していかなる言葉を持っているのでしょうか？

Ⅲ．使徒 6 章における執事の 3 つの目的

今まで見てきたように、ディアコノスという単語は、新約聖書に多く登場します。しかしながら、最も明確な描写は、おそらく使徒の働き 6 章から来ています。そこにおいて最初の執事が取り分けられたと考えます。その箇所の説明から、執事の働きの 3 つの状態に注目したいと思います。

まず第一に、**執事は教会の物質的必要を世話するよう存在する、ということです。**使徒 6 章 1 節を読むと、キリスト者の幾人かが「毎日の配給でなおざりにされていた」とあります。すでに言及したように、執事という単語の語根は、牧師や奉仕者を意味しています。そして特にその単語は食卓時の給仕を表す時や、又は奉仕の様々な種類の中で、いつも物質的・財政的な事柄を表す時に用いられました。使徒 6 章 2 節では、十二使徒はこの務めを「食卓に給仕すること」、又は字義的に「食卓に仕えること」と描写しています。これは執事の務めの最初の様相が一物質的必要を満たす一ことであると理解できます。ここで、使徒 6 章における執事たちが、すべてのことを自分たち自身でしたのではない、ということ述べることは重要です。むしろその中の数人の執事たちが、その働きがきちんとなされるように、おそらく教会にいる他の多くのキリスト者を組織化したのでしょう。

人々の世話をする事、特に他のキリスト者たち—そして最も念頭にあるのが自分達の教会の他の教会員たち—が次の 3 つの理由で重要です。第一に彼らの関心のある物質的な福利のため、第二に彼らの霊的な幸福のため、そして第三に外の人々への証人として、です。イエスはヨハネ 1 3 章で、何と言われたのでしょうか？「あなた方の互いの

間の愛によって、世はあなた方が私の弟子であることを知るのです」。この一節に描かれている物質的な世話は、まさしくキリストのような愛を提示しているのです。

にもかかわらず私たちは、この背後にある目的を見出します。それはただ欠乏の中にある人々のためだけでなく、体全体のためであるということです。これが、使徒6章に見られる第二番目の執事の務めの様態であり、それはからだの一致に中心点が置かれている働きなのです。

もしこの一節をより抽象的な方法で見ると、次のように尋ねることができるでしょう。「彼女ら未亡人を世話する中で、実際に彼らは何をしたというのでしょうか？」彼らはやもめの間で、より平等に食物を分配する働きをしていました。そのことは真実であったとして、ではなぜ重要なのでしょうか？それはこの物質的なことを疎かにすることが、からだにおいて霊的不一致の原因になるからなのです。

「そのころ、弟子たちがふえるにつれて、彼らのうちのギリシャ語を話すユダヤ人がアラム語を話す群に対して不平不満を言った。なぜなら彼らのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである」と、6章1節で始まっているとおりです。キリスト者の一つのグループが他のグループに対して不平を言い始めたのです。このことが、十二使徒の注意を引き付けることになりました。彼らは単に、教会内の親切的な務めにおける問題を正そうとしているのではありませんでした。彼らは、伝統的・文化的な分裂と共に、教会の一致が特に危険な仕方において混乱するのを食い止めようとしているのです。執事は、教会における不一致を避けるように任命されているのです。

互いに建て上げ互いに励まし合う、というまさにこのことが、神の御霊が彼の教会に与えたすべての賜物の目標なのです（例：ローマ.1:11-12）。パウロはコリントの人々に対して、神の御霊は「みなのためとなるために」（Iコリント 12:4-7, 12）と述べています。彼は、初期のキリスト者たちに、次のように熱心に勧めています。「あなたがた

は御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会が建て上げられるような賜物においてまさるようになさい」(I コリント 14:12)。ゆえにパウロは I コリント 14 章 26 節で、「すべてのことを、徳を高めるためにしなさい」と述べたのです。ジョン・カルヴァンは、I コリント 14 章 12 節の注解で、「人が自分自身を立て上げることにより熱心であればあるほど、パウロはその人がより高く尊敬を受けるべきであると望んでいる。」と言っています。またペテロは「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい」(I ペテロ 4:10)と記しています。

教会を教え一体化することは、使徒の働き 6 章で見たように、主として執事の務めです。それゆえ、教会と折の悪い執事が、同じ教会によく仕えるということはできないはずで、執事というのは、教会において最も大きな声で不平を述べたり、又彼らの行動や態度で教会を困らせるような者ではありません。全く逆なのです！執事は音消し装置のようであり、衝撃を吸収する、そのような存在なのです。

それゆえ、教会に執事として仕えようとする者たちは、心が狭量であってはなりません。そのような会員たちは、自分たちの地域や、彼らの権利と自分たちの地区の特権について心配します。又は彼らの領域を邪魔するような他者からの奉仕には、静かに憤りさえ感じるような者たちで、彼らに決して縄張りを与えるべきではありません。執事は、自分たちの問題を擁護するために取り分けられているのでも、又は代議士やロビイストらのように、彼らの陣営のために反対の議論をするのでもありません。代りに、執事は特定の必要に仕えるために、全体の代表として行動するのです。そうです、ただ全体として、という意味において、彼らの行いが全体の健康に貢献するという意味においてなのです。さらに、彼らはこの特定の務めが、全体として教会を教え一体化する働きの一部であることを他の人が理解できるようにと期待されているのです。彼らは親切と愛ある奉仕によって、私たちを一致へと導く助けをします。そのような奉仕者になることで、

教会を建て上げる者へと召されているのです。

三番目に、この人々は、御言葉の奉仕を支えるために任命されているのです。使徒6章3節では、十二使徒は物質的な必要を世話することが教会のある意味では彼ら自身の負っている責任であることを認めています。しかし6章3節において、彼らはこの責任を教会内の他のグループに任せるように述べています。この意味においては、これらの執事は群れ全体を助けているのではないのです。しかしながらそうすることで、彼らは主な責任が別のところにある十二使徒／長老などをサポートしていたのです。

同様に、執事は教会において単独のパワーブロックではありません。彼らは法案が通過するために必要な、立法府の第二議院ではないのです。彼らは、主だった教師たちがすることのできない責任を助けることで、全体として教会に仕えるしもべでした。執事は彼らの務めにおいて、御言葉の教師を援助したのです。執事は本質的に、長老たちの務めの励まし手であり支援者なのです。もしこのことがあてはまるならば、教会に執事として仕えるべき人々とは、教会において最も支えとなる人々、とすることになります。私たちは、励ましの賜物を求めるべきであり、そうすることで、少数ではなく、より多くの人々が、執事らの奉仕によって祝福を受けることでしょう。

ワシントン D.C.にある私たちの教会では、執事は審議をする群としてではなく、むしろ教会の特定の必要な働きを調整する人々として認識されています。私たちが望み祈っていることは、執事として奉仕をしている一人ひとりが、さまざまな務めを通して、私たちが一致するのを助け、個々人を助け、からだを助け、すべてにおいて、神に栄光を帰することです。執事の中には、もてなしの務めを監督する者や、ラジオやウェブを用いた働きを調整する者、音響設備を受け持つ者、教会員を世話する執事たちもいます。これを執筆している今、14人の執事たちがそれぞれ別々の執事職について仕えています。私たちは調整の必要がなくなった働きを定期的になくし、急に発展した働きを二

つにしたり、さらには群れの中で明白に必要と機会が生じたところには、新しく働きを創設したりしています。

私たちが望むことは、これら執事の幾人かが、教会の人的資源の指導的利用者となることです。私たちは、彼らが教会のために祈り、全体を知り、そして彼らの調整している奉仕が、いかに教会の働きを全体として前進させているかを認識することにおいて、彼らが勤勉であることを望むのです。私たちは、彼らが教会に対してするこの奉仕が、多くの犠牲を払ったものであることを知っています。彼らは、その立場で奉仕している間は、教会における主な務めは執事職であることを理解する必要があるのです。教会を建て上げることにあって、彼らを訓練していく中で、あれこれと特定の務めの役割が見えていき、他の兄弟姉妹の間において彼らが務めの核心を進展させていくにつれて、そのような奉仕者が与えられていることの何と祝福なことでしょう。彼らの活動や奉仕を通して、私たちの執事たちは、彼らとその職務を保っているよりもさらに長い間、私たちの教会にとって祝福となるでしょう。

IV 執事の資質

I テモテ 3 章 8 節から 13 節で、パウロはエペソの教会の牧師であるテモテに対して、執事がどうあるべきかについて簡単に説明しています。そこに上げられている特徴と使徒 6 章で選ばれている資質を組み合わせると、執事として私たちに仕えているその人たちは、聖霊に満たされているという点で確かに知られていました（なぜなら物質的な事柄に関心があるにしても、それらは確かに霊的働きであるからです）。彼ら執事たちは知恵に満たされていたことでも知られていました。彼らは会衆の信任によって、会衆によって選ばれるべきであります。彼らは執事の務めが仕えるように意図されているように、快く勤勉に特定の必要のために責任を果たすべきです。執事は尊敬に値し、誠実で大酒飲みでなく、不正な利を求めず、きよい良心をもって信仰の奥義

を保っており、ひとりの妻の夫であって自分の子どもと家庭をよく治める、そのような審査を受け承認されたしもべであるべきなのです。

「ひとりの妻の夫」であるべきだと命令されている執事は、執事職の地位に女性の奉仕を除外するものではありません。ローマ 16 章 1 節のフィベの例と、聖書のどこかに女性の「執事」の単語が使われている用法、又ある程度少なめにではありますが、バプテスト教会における女性執事の長い歴史からも、私たちの教会では執事としての女性の務めがなされていることを喜んで受け入れています。しかしながら、I テモテ 2 章と、男性がかしらとして描かれている広い聖書的な事実から、私たちは執事の職務が長老（が執事として今日多くの教会でみなされている）のそれと混乱している場合には、教会として女性を執事として認めることを思い留まらせています。長老の明確な役割について明快なことと、また長老たちが男性であるべきだという事実から、私たちが教会によって認められた姉妹を自由に執事または女性執事として励ますことを可能にしています。

まとめ

要約すると、新約聖書は、使徒 6 章で見てきた執事の務めの 3 つの側面、つまり御言葉の奉仕の下にからだの一致を目的として、物質的な必要のために世話をすることへと行き着きます。執事とは、長老の奉仕を援助し、キリストのからだを一体化し、そして貧しい者の世話をする者です。彼らは励まし手であり、平和をつくる者であり、しもべであります。ディートリッヒ・ボンフェッファーが次のように述べています。「教会は優秀な人物ではなく、イエスの忠実なしもべと同胞を必要としているのである」（ボンフェッファー、共に生きる生活、p 109）。

第 2 章 長老

執事職同様重要であり、キリスト者として共に生きるうえでより本質的な務めが、もう一つの群の働きであり、今からみる一長老たちです。

I . 長老の複数性

地域教会における長老について、まず最初に言及すべきことは、彼ら長老たちが複数形で存在するという点です。特定の会衆に対して、長老の数は明確には述べられてはいませんが、新約聖書は一様に「長老」を複数形で表しています（例：使徒 16:4;20:17;21:18;テトス 1:5;ヤコブ 5:14）。福音書や使徒の働きの中で言及されるイスラエルの長老たちも複数形です。天における長老たちも複数形です（黙示 5:14;11:16;19:4）。使徒 11 章 30 節で、長老は複数です。使徒 14 章 1 節から 23 節で、「彼らはその町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルステラとイコニオムとアンテオケとに引き返して、弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、…パウロとバルナバは彼らのために教会ごとに長老を任命し〔又は選び〕、断食して祈った後、彼らをその信じていた主にゆだねた」とあります。もし使徒 15 章を通して見るならば、2 節、4 節、6 節と 23 節でそれぞれ複数形で長老が用いられているのがわかります。使徒 16 章 4 節で、長老という単語は複数形で表れています。使徒 20 章 17 節では、パウロが自分自身をエペソの教会の長老と呼んでいます。使徒 20 章 28 節や、I テモテ 4 章 14 節、5 章 17 節なども同様です。テトス 1 章 5 節では、パウロは次のように述べています。「私があなたをクレテに残したのは、あなたが残っている仕事の整理をし、また、私が指図したように、町ごとに長老たちを任命するためでした…」。ヤコブ 5 章 14 節でヤコブは、地域教会（単数）の長老たち（複数形）が病気の人のために祈りに来る様子を描いています。I ペテロ 5 章 1 節では、ペテロは彼らキリスト者の中にいる長老たちに訴えかけています。実は、唯一の例外が、第二、第三ヨハネにあります。そこでは作者は単に自らを「長老」

と言及し、I テモテ 5 章では、もし長老に対する訴えができた場合に、どのように対処すべきかについて教会の判例が挙げられています。しかしながら基本的に新約聖書における状況は、地域教会の中には一人の長老ではなく、通常長老たちの群れが存在していたということです。

II. 長老の資格

だれが長老になるべきでしょうか？彼らの資格はどのようなものであるべきでしょうか？長老たちに対する資格は、聖書の I テモテ 3 章とテトス 1 章に明確に記されています。

I テモテ 3 章を見る前に、I テモテ 2 章で挙げられている重要な問題について注意を払う必要があります。それは、女性が長老として仕えることは神の御心ではないということです。I テモテ 2 章の曖昧な表現をめぐっては、多くの質問が投げかけられてきました。常に安全な方策は、曖昧な部分があるからと言ってすでに明確なところを疑うのではなく、聖書の明確な箇所から始めて、神がより曖昧なところに光を当ててくださるよう祈ることにあります。I テモテ 2 章において明確なことは、女性は教えたり、男性の上に権威を持つべきではないということでした。パウロがここで不適切であると言わんとしている正確な権威が何であろうとも、女性が教えることが含まれていることは明らかです。初代教会における慣例は、夫が妻を支配するという創造の秩序がそのまま教会において慣例となっている、ということです。ガラテヤ 3 章 28 節で明らかなことは、キリストにあっては男も女もないということです。しかしながらこのことは、男女の間の性におけるすべての区別を無視するものではなく、かえって、救いにおける神の恵みのすばらしく公平なことを単に確認しているのだと捉えます。

以上のことを踏まえて、I テモテ 3 章を見てみましょう。しばらく時間を取って、I テモテ 3 章 1 節から 7 節を読んでください。D. A. カーンソン（トリニティ神学校の新約学の教授）はかつて、このリストに載っている特徴は、全く注目に値しないという点で、最も注目に値

すると述べています。彼が言わんとすることは、これらすべての特徴は聖書のあらゆるところにおいて、キリスト者全員に課せられていることでもあります—すなわち、教える能力（I テモテ 3:2）以外のすべては。聖書はここで長老の特徴について十分な位に私たちに教えていますが、パウロがこのリストを完全なものであると主張しているとは私には思えません。むしろ彼の目的は、当時の周囲の文化からも道德的であるとみなされる一般的な特徴を羅列しただけであると考えます。

教会における指導者の目的は、外部の人たちに真理を推薦することです。神に栄光を帰することです。このことは、パウロがコリントの教会において互いの争いをこの世の裁判所に訴え出て、甚だしく不品行な生活を送る者たちが教会と交際するのを許していることを怒った理由でもあります。これらのことは両方とも福音の証言を台無しにすることでしょう。従ってパウロはI テモテで、エペソ教会で幾人かの偽教師の明らかな不信仰によって、赦しと希望の福音の宣言、そして罪人の回心という教会を通して現される神の栄光を徹底的に危険にさらされていることを指摘するのです。パウロがI テモテ 3 章（またはテトス 1 章）で挙げている徳のリストは、キリスト者が現すべきすべてではないのです。それらは、教会指導者たちを監督する立場にある人々へ、福音を委託したところの徳です。規則正しい聖書朗読は良いことですし、祈りは必要です。しかし、パウロがここで述べていることは、そのどちらでもないのです。それにもかかわらず、私は自分の教会の長老たちにはそれらの徳の両方を備えてもらいたいと思います。聖書の他のところで私が教えられてきたことは、それらの徳はすべてのキリスト者を描写するためであり、ここでパウロが言わんとしていることは、私が思うに、時間どおりにお金を払うとか、いつも喜んでいるとか、謙虚で人の役に立つとか—異教徒でさえも良いと認める事柄を、彼は強調したかったのではないのでしょうか。

では、どのようにして自分の教会でそのような指導者を見つけ出せばいいのでしょうか？ 私たちは、このことにおいて神の知恵があるよ

うに祈ります。私たちは、特にそのような責任についての資格が教えられている I テモテとテトスの箇所を学びたいと思います。指導者を選ぶ際に、私たちはこの世の基準には従いません。ある教会が実際に行っているような、単に会衆の中に地域の指導者を見つけ、そのまま教会の指導者にするような真似はすべきではありません。オズ・ギネスが彼の著書『*Dining with Devil*』の中で、日本人ビジネスマンが滞在中のオーストリア人に言ったコメントを詳しく紹介しています：「仏教指導者に会う時はいつも、私は聖職者に会います。キリスト教の指導者に会う時はいつも、経営者に会うのです」(p.49)。その代わりに、私たちは、人格者で、評判がよく、御言葉を論じる能力があり、教会の中でよい指導者として特徴付けている豊かな実を備えている人物を探すべきです。これら教会指導者の特色は、彼ら自身の上ではなく、他者の上に建てられるということです。従って、彼らはお金に無欲であり、かえって知らない人をもてなし—まさにそれが「温かくもてなす」の字義的意味でもあります。真の教会指導者は、他者中心であるべきなのです。

Ⅲ. 歴史的概観

すべての教会が、たとえ異なる名前と呼ばれていても、長老の働きをする個々人を擁しています。この職務に対する新約聖書の最も一般的な名前は、episcopos(監督)と presbuteros (長老) です。

今日福音派が単語で「長老」と聞くと、多く人はすぐに「プレズビテリアン(長老教会派の)」を思い浮かべることでしょう。しかしながら、16世紀の最初の組合教会主義者たちは、長老職が新約聖書の教会におけるひとつの職務であると教えられました。長老を長老派と関連させるのは歴史的には正確ですが、もっぱら長老派だけに関連させるのは正確ではありません。またその単語がバプテスト派にとって、無関係であるとも考えることも正しくありません。

長老職は、18世紀中から19世紀にかけてアメリカのバプテスト派教

会に見つけることができます。¹南部バプテスト会議の初代議長であった W.B. ジョンソンが教会生活について記した本の中で、彼はひとつの地域教会において複数の長老職が存在する考えを強く主張しました。それが聖書に無関心なせいであろうと、又はフロンティア（未開拓地域）の生活の多忙のためか（驚くべき速度で成長する教会！）、そのような聖書的リーダーシップ（textured leadership）を奨励する習慣が衰退してきました。しかしバプテスト派の論文の中で、この聖書的な職務を復活させようとする議論が継続しました。遅くとも 20 世紀初頭には、バプテストの出版物は、指導者を「長老」という名称で言及しています。この慣例は今日のバプテスト派教会の間で一風変わったものにもかかわらず、そこに戻ろうとする傾向がみられるのです。そしてそれにはもっともな理由が存在します。それは新約聖書の時代の教会に長老が必要であったように、今も必要だからです。

ではまず最初に長老と教会スタッフとの区別をし、次に執事、さらに牧師とほかの長老たちとの関係について見ていくことで、長老とはどういう意味か明確にしたいと思います。

IV. 長老と教会スタッフとの関係

現代の多くの教会で、長老と教会スタッフを混同する傾向が見られました。スタッフとは、教会がその働きのために常勤で雇われている人々のことを指します。彼らはしばしば日々起こる事柄について最も精通しています。彼らの多くは神学教育を受けており、ある程度の信仰と成熟を備えていなければなりません。そうでなければそもそも彼らが雇われることはないはずです。勿論教会スタッフのメンバーが長老であるかもしれません。実は、私たちの教会憲法には、その人物が直ちに長老として認知される者でなければ、牧師として招聘することはできない、と規定してあるのです。それは、賢い規定であると私は考えます。しかしながら同じ教会憲法によって長老の過半数は、教会

¹ 例えば、O.L. Hailey and J.R. Graves, *Robertson's Life of Broadus*, p.34, 40.

で雇われていない者で構成されるよう規定されているのです。例えば、私たちの牧会アシスタント（若い男性で、働きに有用で、すぐにでも神学校を目指して進みそうな人物）は大抵の場合、長老としては認知されていません。しかし彼らは教えることから教会員の訪問まで、すべてにおいて私たちにすばらしいケアを与えてくれています。私たちがこの規定を教会憲法に含める理由は、ただ単に長老たちを雇うということだけではなく、彼らを私たちの中から見つけ出せる位、靈的に豊かな実が結べるよう努力をすることで、私たちが会衆として確かにその責任の重さを実感することができるよう願っているからです。現在私たちの教会で長老として認められている5人のうち、3人はこの世の仕事をもち、牧師の私と教会管理者の二人だけが、教会に有給で雇われています。

V. 長老と執事の関係

教理の面においてでなく実際に、多くの教会が新約聖書の執事と長老の役割を混同してきました。今まで見てきたように、執事職の関心事は、教会生活の実際的な事柄であり、管理、補修と物質的な必要に伴う教会員の世話である—それらすべてが教会の一致と御言葉の働きを促進するためにあるのです。

I テモテ 3 章の長老と執事に対する資格のリストの比較で最も顕著なのは、それらの違いではなく類似点です。監督（長老）と執事の両方ともに評判が良く、非難されるところがなく、信頼に値し、ひとりの妻の夫であり、酒飲みでなく、慎み深く、寛容な人でなければなりません。実際は、それら二つのリストの特徴があまりにも似ているので、顕著なのは、パウロと初期のキリスト者たちが、二つの別々の指導者の群れを明確に認識していた、ということです。

使徒 6 章では、執事と長老の役割と責任の区別の根拠を見てきました。使徒 6 章 2 節では、エルサレムの教会で不平不満が始まった後に、
「なので 12 使徒が弟子たち全員を集めて言った、『わたしたちが神の

ことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません』。ここから、神の御言葉の務めは長老の責任の中心である、とすることができます。それは、まさに教会にとって絶対的に中心的なことなのです。使徒 6 章 4 節でもう一度特色付けられているのは、「私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします」ということです。彼らは、字義的には、みことばの執事とすることができます。このことは、後にみます使徒 15 章ともぴったり適合し、使徒 20 章でも再び登場、そして長老は教える能力がなければならない、という資格においても同様なのです。長老の役割は、基本的に神のみことばを教えることで、神の民を導くことなのです。この教えは神のみことばの公の取り扱いと、みことばが導くところの模範的な生き方によってなされるのです。

この特徴を要約すると、長老たちの権威は彼らの教える務めと直接的に関係しています。彼は牧師／羊飼いとなるように求められているのです。長老である私たちは、監督として仕えるよう求められています。使徒 6 章で、長老たちが集会において何か提案しています。I テモテ 5 章でパウロは、長老のことを「教会の事を指導し」、「みことばと教える者」として言及しています。しかしながら長老たちの役割は第一に、忍耐強くかつ注意深く教えることで彼らを導くことにあるのです。長老職と執事職の役割を再度明確することで、多くの教会が多大な益を受けることになるでしょう。

VI. 長老と牧師の関係

もしあなたが次のような質問をするとします。「聖書は、長老制の中に、またはそれに付随して、主任牧師という立場について何か教えていますか？」質問に対する答えは「いいえ、直接にはない」です。そうは言っても私たちは、長老の中に教会の主要な公の教師としての明確な役割を見つけることができると思います。

「牧師」という語は新国際版 (NIV) のエペソ 4 章 11 節で、教会に

対する神の賜物リスト（教師とペアで）にのみに登場します。英語の「パスター（Pastor）」という単語の背後には、ギリシャ語のポイメナスという単語があり、それは「シェパード（Shepard）」（羊飼い／牧師）と関連しています。そしてこのシェパードと関連する単語が何度か出てくるのですが（例：I ペテロ 5:2、使徒 20:28）、しかしこれらの例はいずれも、長老と別々の立場であると示している箇所ではありません。なるほど使徒 20 章 17 節、28 節では「長老」、「監督」（Bishop）、そして「シェパード」（牧師）がすべて同じグループの人々のことを指し、交代可能な形で用いられているのです。

それでは次に、新約聖書において私が考える 4 つの役割を挙げてみたいと思います。

- 1) 新約聖書の中にも、長老として仕えながら、場所から場所へと移動する（テモテやテトスのような）幾人かの者たちや、移動はしないが長老として働く（恐らくテトス（テトス 1 章 5 節）のように町ごとに任命する）者たちが存在しました。このように、テモテは外部から来ましたが、他の長老たちは地域教会の内部から任命された者たちでした。
- 2) 長老の幾人かは会衆によって常勤で支援を受けており（参照：I テモテ 5:17-18, ピリピ 4:15-18）、別の仕事をしている（パウロがしばしば最初にある地域に福音を定着させる際に行ったように）者たちもいました。しかしながらある者は、テトスがクレテで任命した長老たちの全員が常勤で雇われていたとは考えません。
- 3) 使徒の働きから私たちは、エペソの教会にも他に長老たちが存在していたことが分かっていますが、パウロがテモテだけに、教会宛ての指示を書き送っていたことは興味深いことです。けれども、テモテはある意味彼らの間でユニークな働きを担っていたとも言えます。
- 4) 最後に、黙示録 2 章と 3 章にある 7 つの教会宛のイエスの手紙は、それぞれの教会の説教者（単数形）に宛てて記されています。

勿論、これらは厳格な命令ではありませんが、それらは私たちが実際に行っていることとも一致します。それは、必ずしも自分たちの共同体の中からである必要はありませんが、長老たちの中から少なくとも一人（あるいはもっと多く）をより分け、支援をし、彼に教会における主要な教えの責任を与えることです。

しかし、説教者または牧師は基本的に会衆の長老たちの一人でもある、ということをおぼえておく必要があります。私の牧会上の働きで、最も助けとなったことを一つ挙げるとすれば、それは他の長老たちを承認することでした。私と一緒にほかの長老たちが行う奉仕は、計り知れない恩恵を与えてくれました。複数の長老の存在は、牧師の賜物を完成させ、欠点や判断を補い、教会内の決議に際して支援を作り出し、指導者たちが不当な批判にさらされる機会を減らすことで教会を助けるべきです。そのような複数長老性が指導者の地位をより根付かせ永続したものにし、より成熟した連続性を教会に与えるのです。そしてそのことは、教会が自分たちの教会員の霊的成長のために責任をより自覚し、教会の専任スタッフに依存しすぎないようにもさせています。ワシントンにある私たちの教会は、神が与えてくださった長老という賜物のゆえに、これらの恩恵とそれ以上のものを享受しているのです。

VII. 長老と教会の関係

この件に関して後ほどより詳しく、会衆教会主義について考える時に取り扱うことにします。一般的に長老と彼らが仕える地域の会衆との関係は、神の特性の多くのしるしや神への相互信頼によって特徴付けられるべきものです。

ここで上記関係を特徴付ける5つ—承認、信頼、信心深さ、用心深さと結果、について述べたいと思います。

1) 明確な承認

長老たちは教会のために神から賦与された賜物を、教会によって承認されるべきです。教会はそれゆえに自分たちを教え導く任務を、彼らに委任すべきなのです。それらの任務は、長老たちが明らかに聖書とは反対のことを行った時にのみ撤回される種類のもので、そして彼らにとっては、長老たちは、神が与えた教会における権威を認めなければなりません（例：マタイ 18 章； I コリント 5 章、II コリント 2 章）。

2) 心からの信頼

教会は、長老たちを信頼し、守り、尊重し、そして尊敬すべきです。パウロが I テモテ 5 章 17 節で次のように記しています。「よく指導の任に当たっている長老は、二重の尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。」長老たちは、教会の問題に対し監督し、教会は彼らの指導に服従すべきです。ヘブル 13 章 17 節で、「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのための見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることのないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」

3) 明白な信仰深さ

パウロが記したテモテとテトスの手紙の中で私たちは、長老たちに対して「非難されるところがなく」と強調されているのを見ました（テトス 1:6 節でパウロは「長老は、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、その子どもは不品行を責められたり、反抗的であったりしない信者であることが条件です」）。それゆえ長老職に就く者は、自分の生活が視察にオープンであり、そして家が外部の人に積極的に開放されていて、もてなしを与え、他者を自分たちの生活に喜んで受け入れるべきなのです。

4) 誠実な用心深さ

長老たちは、彼らに与えられた権威の用い方によって明らかにされるべきです。そのことで、長老たちは教会が彼らに属するのではなく、キリストに属するものであることを理解しているかが分かるからです。キリストは、その御血潮によって教会を買い取られました。それゆえ教会は教会の益の中で、神の栄光のために、育成され、慎重かつやさしく扱われ、信仰によって純粹に導かれるべきであるのです。長老たちは彼らの奉仕について、キリストにその説明責任があるのです。

5) 有益な結果

家庭においても、または私たちの神様との関係においても、正しい権威の謙虚な認識は、益をもたらすものです。教会においては、会衆の同意のもとに教会の益のために権威が用いられるならば、会衆は神がお与えになった教師を通して、神が彼の教会を建て上げるという益を享受します。サタンの嘘は—その権威は決して信頼されることはありません。なぜならそれは常に非道で圧制的なので—会衆の文脈における長老の権威の認知と、慈悲深い履行によって覆されるでしょう。

エドワード・グリフィン（1770年～1837年）が彼の長年の教会奉仕から引退する時、彼は、牧師だけではなく（グリフィンが意図したように）、実に神様が私たちに長老としてお与えくださった、彼らすべての人々をどのように尊重すべきかについて、いくつかの示唆に富む言葉でもって会衆に熱心に勧めています。

あなたがたとあなたがたの子どもたちのために、あなたがたが自分たちの牧師として選んだ彼を育て、尊敬しなさい。彼はすでにあなたがたを愛しておられ、彼はしばらくすると「私の骨の骨、肉の肉」としてあなたがたを愛するようになるでしょう。牧師の働きが彼にとって限りなく喜びとなるようするのも、同じようにあなたがたの義務であり関心となるでしょう。あまり多くを要求しないようにしなさい。

訪問を頻繁に求めないようにしなさい。このように彼が求めに応じて半分の時間を費やすなら、もし早々と重荷によって潰れなければ、彼は自分の学びをすっかり疎かにせざるを得ないでしょう。牧師に対して言われているすべての不親切な事柄は、彼に報告してはいけません。もし反対者が現れたら、たとえ頻繁でなくても彼の面前で彼らにそれとなく言及しなさい。彼はキリストの牧師ではあるが、彼は人の感情を持ち合わせていることを考慮しなさい。²

Ⅷ. 権威の賜物

今まで見てきた中で見逃してならないことは、指導者として奉仕することは大きな特権だということです。ある人々は忙しすぎると感じるかもしれませんが、またはそのような働きは全く価値がないと考えるかもしれません。私は俳優のゲーリー・クーパーが述べた次の言葉を思い出しました：「私は無惨に失敗したのが、ゲーリー・クーパーでなくクラーク・ゲイブルであることをただ嬉しく思う」。これは、クーパーが「風とともに去りぬ」の主役の座を断った時に述べたとされることばです。私たちが考えてきたことは、この世の名声や富をもたらすいかなることよりも、もっと重要なことです。パウロは長老であることは「高貴な仕事」で、人がもしそれを求めるならすばらしいことを求めているのだ!³、と述べています。

私が人との会話の中で最も寒気がすると感じた中のひとつは、私がケンブリッジ大学で働くある人と話をしている時でした。私たちは食事のために外に出かけていました。その時のこと、最近行われた市の会議の決定について彼があからさまに怒りを表したのです。彼がそれを続けるのをみて、私は私の友人の権威に対する典型的な怒りの反応を思い出しました。そして私はある時点で彼に単純で直接的で、無条件の質問を尋ねました。「権威はそんなに悪でしょうか？」通常、その

² Edward Griffin, *A Tearful Farewell from a Faithful Pastor*, 1809.

³ I テモテ 3:1

ような質問には、ただ困惑した表情がかえってきたり、ナイーブな質問に対してわざとへり下って鼻をすすったり、そして無数の条件によって妨げられたらだらとした答えが返って来ます。しかしこの時ばかりは彼のあやのない、単純で直接的で無条件の「はい」という返答にショックを受けてしまいました。

権威の墮落した性質とその濫用の可能性について、認識していることはよいことであり、健全です。神の目的からかけ離れた権力は、常にサタンの的です。しかしながら、すべての権威を疑うこと、または生まれつきの不信はとても悪いことです。実に、それは権威に対してというよりは、人に疑問を投げかけるように現れます。さらには、それが、神のイメージに造られた者として働くための私たちの能力において、ガン細胞のように退化することを示すのです。神が意図したように私たちが生きるには、彼を信頼し、そして多くの範囲で、神に似て創造された者を信頼することです。聖書の中のアダムとエバから黙示録に登場する悪漢の支配に至るまで誰もが、根本的に神の権威を否定し、それをあたかも自分たちのものとして奪うことによって、自分たちの罪を現すのです。

信仰深い指導者によって仕えられていることの何たる特権。私たちのために見本とされ実践されてきた神からの権威を持っていることは、すばらしい賜物です。私たちの時代に多く見受けられるように、権威を否定することは、近視眼的であり、自己破壊状態です。権威なき世界は、例えるならば際限のない欲望であり、制御の利かない車であり、信号機のない十字路交差点であり、両親のいない家であり、神なきこの世そのものであります。そのような状態はしばらくは続くかもしれませんが、しかしやがては無意味となり、そして悲惨な状況になり、しまいには悲劇的になるでしょう。

私たちの無視しようとする傾向とは裏腹に、信仰に篤く聖書的な指導者は、神の栄光を現すべき教会を建て上げるのに、不可欠な存在です。私たちの教会における指導権の行使は、神の性質や人格と関わっ

ています。もし私たちが適切な権威を、法律を通して、家族会議において、仕事場において、スカウト分隊 において、家庭において、そして特に教会において行使するなら、神のイメージを彼の被造物に現す助けをしていることになるのです。これが私たちの召命であり、これこそが、私たちの特権なのです。

第3章 会衆主義

あなたは、単に教会があなたの霊的成長のためにあるとお考えですか？日曜日の朝、教会の家族と一緒に集う時、あなたは単に自分の個人的なディボーションを他の多くの人々と共に持っているのではありません。いいえ。あなたは、特定の教会生活に与っているのです。そしてキリスト者が会衆として集まる時、それは単に個人消費者が一時共有された好みによって、たまたま同じ部屋にいるのではないのです。私たちは実際に、生きた制度で、育ち得る有機体の一つの体として集まっているのです。私はなぜあなたが教会に行くのか知りたいぐらいです。

事の要点を把握する助けとして、一つの質問を投げかけたいと思います。教会は何の役に立つのでしょうか？しばらく時間をとって、質問に答えてみてください。あなたが教会とそれが何かについてもっと理解しているなら、キリスト者の生活は、個人的な美德のリストを磨き、悪のリストを避けるための単純で継続した道徳的努力以上のものになります。あなたは、教会がこの世における、神の生きた現われとして存在することを理解し始めるでしょう。

I. 会衆主義一何を意味するか？

しばしば人々は、会衆主義を誤解してきました。その中傷は、ローン・レンジャー風⁴の類のように提示されてきました。「分離主義」とも呼ばれてきました。ある著者は、会衆主義を「個々の教会が、あたかも世界の中で、他のすべてのキリスト者の中で独立して、孤立しているかのような主張」⁵と定義しました。他方、擁護者の何人かは会衆主義を、奪うことのできない人間の権利と結びつけて、正しくかつ単純な民主主義という風に提示しました。チャールズ・フィンレーは、会衆主義を次のように説明します。

⁴ スーパーマンと並んで、戦前からアメリカの少年の間では圧倒的な人気をばくしていた西部劇の黒覆面のヒーローのこと。

⁵ Roland Allen, *Missionary Method*, p.85n1.

監督制度は、人々の間で一般的に無知な状態の場合に、よく適合します。長老主義又は教会共和主義は、キリスト教の信条の普及と、より進歩した知性の状態によく適合します。会衆主義又は靈的民主主義は、一般的な知性と、キリスト教信条の普及しているところに、最もかつ唯一適合するのです。⁶

これらはどれも、新約聖書が私たちに残してくれた教会生活の状況のよい理解ではありません。会衆主義は決して他の教会と、宣教、教育、伝道、災害援助やその他多くの事柄において協力することを禁じてはいないのです。しかしながらそれが意味することは、戒規の問題であろうと、教理のことであろうと、特定の会衆に対して、外から誰も命令をすることができない、ということなのです。私たち会衆派は、他のいかなる組織よりもおそらく聖書の明快さに頼ることと、誰が会員や指導者として認知されるべきなのか、そして何を信じ何をなすべきなのかの理解について、神が彼の民を全体として導いて下さると考えるのです。

ある人は会衆主義を単なる文明開化の政治理念として片付けてしまいます。しかし、単純にそういうわけにはいきません。AD96年頃記されたコリント教会に宛てたローマのクレメンスの第一の手紙に、長老が「教会の完全な同意のもとに」委任されている様子を見ることができます⁷。他の例もたくさんあります。キリスト者は過去において、確かにこのことを聖書によって教えられ理解してきたのです。

会衆主義は単に、地域教会の生活の問題の最後の最終審裁判所が、ローマの司教でもコンスタンティノープルでも、ワシントンでもないという理解です。それは、何らかの国際機関でも国の議会でも、会議でも大会でもありません。それは、教派の議長でも、評議員の議長でもありません。それは、地域の宗教会議でも、宣教団体でもありません。地域教会の中の長老グループでも牧師でもありません。地域教会の生活の問題に関する最後で最終の上訴裁判所は、地域教会自身であ

⁶ Charles Finney in his *Lectures on Theology*.

⁷ 翻訳 .Staniforth, p.46.

るべきです。このことは、教理や戒規、教会員の加入と彼らの間の争いの調停において、新約聖書によって証拠付けられています。

では次に、新約聖書における4つの事柄について見ていきます。

1) キリスト者同士の争いについて

マタイ 18章の15節から17節において、イエスは兄弟間の争いについて述べています。

また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人や取税人のように扱いなさい。

ここで注目すべき点は、最終的に誰に訴えているか、最終の訴えを裁くところはどこかなのです。それは、主教でも司祭でもありません。集会でも宗教会議でも、大会でも会議でもありません。それは、牧師でも長老会でも、又は教会の委員会でもありません。それは、「教会」、つまり地域教会の全体であり、その行動が最終的な訴えの場でなくてはならないのです。

もし私たちが最初に検討した使徒 6章 1節から 5節の箇所を見れば、初代教会の生活の中で重大な出来事があったことがわかります。そこでは、教会の資源の分配をめぐる問題が起こりました。そしてこの問題が使徒の注意を集めたのは明らかでした。

そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。そこで、兄弟たち。

あまたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。

この提案は全員の承認するところとなった。

そしてルカは、教会が選んだ人たちの名前を続けて挙げています。

新約聖書を私たちの教会生活の指針として用いることの複雑さの一つに、初代教会における使徒たちの存在があります。あなたにもその難しさが理解できるかと思えます。どのようにしたら後の長老たち、牧師たち、そして監督たちが使徒たちの習わしを、自分たちの指針として十分に引き受けることができるでしょうか？私たちは、教理を定義し、誤りを描写し、又は彼の地上における働き全体を通じて、イエスと共にいて彼によって教えを受け、そして特にイエスによって彼の教会の土台となるように委託を受けた者たちのキリストのことばを思い出すことができるでしょうか？私たちの名前が、使徒たちの名前のように新しいエルサレムの土台に銘記されるでしょうか？明らかに、これらすべての質問の答えは「いいえ」です。

使徒たちの模範についての私たちの問題は、その件に関して現代の教会指導者たちが、そのような権威に見合う資格がないにも関わらず、彼ら自身に過剰な権威を帰していることです。今までに使徒6章では、まさにこれら使徒たちが会衆に対して責任を譲っています。彼らは、イエスがマタイ18章で述べたところの神の下にある究極の権威と同じ類のものを、集会で認識されてきました。

これらの例に従うならば、パウロも地域教会の戒規と教理は、神の下で会衆によって保管されていると教えています。パウロはコリントの教会宛てに手紙を書いたとき、彼らに対して教会内の内部の者たちに裁かれるべきことを話しています（Iコリント5:12）。彼

は、「教会のうちでは無視される人たちを裁判官に選ぶのですか！」と書いています(I コリント 6:4)。キリスト者の間の争いは、総じて教会が聖書も主張するように、最終の裁判所なのです。

2) 教理に関して

新約聖書のすべての手紙（ピレモンへの手紙と牧会書簡を除いて）は総じて教会に書かれたもので、彼らの責任とは何かについて全体的に彼らに教えています。基本的な福音の定義に関してさえも、会衆が[地上における]最終的な訴えの法廷となっています。そのように、ガラテヤ 1 章でパウロは、御使いと使徒の説教者について（彼自身についても！ガラテヤ 1:8）、もし彼らがガラテヤ人が受け入れた福音以外を宣べ伝えたかどうかを批判するよう、比較的若いキリスト者たちの集まりである会衆に求めているのです。彼は単に牧師や長老や司祭又は会議や大会や、又は神学校に向けて書いたものではありません。彼は、教会を構成するキリスト者たちに向けて記したのです。パウロがはっきりさせたことは、彼らは自らが主張する福音について審査される資格があるだけでなく、彼らは審査されなければならない、ということでした。彼らには、ガラテヤのキリスト者たちが既に知っている福音とともに、彼らの首尾一貫している新しい主張に従って、イエス・キリストの良き福音のメッセンジャーと主張する者たちを裁く、という避けて通ることができない務めがあるのです。

パウロは、このことについて再び II テモテ 4 章 3 節で彼がテモテに対して偽教師の取り扱いについての最良の方法を助言したとき、彼が教会の偽教師の来訪の流れを述べるとき、特に 4 章 3 節で、「自分たちの願いにあわせるために…自分に都合の良いことを言うてもらうために、多くの教師たちを彼らのまわりに集め」た者たちを責めました。彼らを選んだにせよ、報酬を払ったにせよ、又は彼らの教えを認めたにせよ、又は単に繰返し彼らに聞くことを同意したにせよ、ここでは教会が責められるべきなのです。彼らは、偽教師自身と同様に、偽りの教えを大目に見たことについて有罪なのです。

基本的な教理的定義では、総じて会衆が聖書が主張する最後の裁判所なのです。

3) 戒規について

I コリント 5 章において、パウロは（長老たちだけでなく）コリント教会全体に行動するように、5 節、7 節、11 節と 13 節で注意を喚起しています。このことは、単に又は最終的に使徒であるパウロだけの問題でも、地域のコリント教会にいたいかなる長老の問題でもありませんでした。これは、教会全体の問題だったのです。彼ら全員が教会員としてこの人物を認めたのであり、次に彼らは皆で彼のことを大目に見たのです。彼ら全員が直ちに彼の罪に巻き込まれており、この男を逃がすか、さもなくばキリストの弟子としての彼らの主張をやめるかの、どちらかをしなければなりません。教会の戒規に関しては、教会全体が、聖書が主張する最後の裁判所なのです。

4) 教会籍について

パウロは II コリント 2 章の 6 節から 8 節で、「その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰で十分ですから、あなたがたは、むしろ、その人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶされてしまうかもしれません。そこで私は、その人に対する愛を確認することを、あなたがたに勧めます」。彼らはこの男を罰する行動を取ったのです。そのように行動することにおいて、彼らは大多数でしたのです。教会員の大多数が、この男を彼らの交わりから除外することを表明したのです。処罰は功を奏した様子でした。それは、パウロがここで「彼にとっては十分でした」と述べているとおりです。すぐにパウロは、悔い改めた男の教会への再加入を促すよう教会全体に対して書いているのです。パウロは精一杯勧告をしましたがそれ以上はできなかつたのです。なぜなら教会籍に関しては、教会全体が、最終の裁判所であるべきだからです。そのように聖書にもあるからです。

Ⅱ. 会衆主義 — ではないもの

聖書が提示するように、教会が最終的な訴えの場であり、私たちの日常生活における神のことばの意味と適用に対する最終的な地上の権威であるからと言って、会衆がつねに正しい、ということの意味していません。ペテロが、彼の弟子でありエペソ教会の牧師であったテモテに手紙を書いたとき、来るべき悪霊の時について次のように描写しています。その時とは、「人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分に都合の良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集める」（Ⅱテモテ 4:3）。興味深いことに、パウロは長老たちとともに会衆が、教会の教理を監視続ける責任がある（彼のガラテヤ人への手紙によって暗示されていたように）と言い出していますが、彼は又ここで彼らがその責任を不当に行使するであろうことも明らかにしています。会衆主義は聖書的ですが、会衆に誤りが無いわけではないのです。

このことは、Ⅱテモテ 4 章の例からも明らかです。教会の歴史からも痛いほど明らかなことは、主として数百年の暗黒時代を過し、聖書的英知において私たちが素晴らしいと認める兄弟姉妹の会衆においても継続的な間違いがあったということです。会衆が誤った判断を下した個々の例は多いのです！歴史においては、私たちは、ジョナサン・エドワーズを解雇した教会を挙げることができます。会衆はそのような権威を持つ十分な聖書的権利がありました。しかしそれは、あなたも同意することと思いますが、非常にひどい使い方でした。自分たち自身の教会について考えてみてください。私たちはもはや、自らの罪を言い表すことよりも神の教会の過ちを話すことで、神の主権に対して疑いを起こすことはしません。この墮落した世界においては、神によって制定された正しい権威でさえも誤ることがあるのです。

新約聖書における会衆主義の描写は、全くの不完全の絵でしかありません。私たちは時々、わきぜりふや見せかけのように、それを

手に入れます。しかしながら、それは明らかに存在し、そのことを考えれば考えるほど、それは至る所で明らかになるのです。それにもかかわらず、周囲の見せかけの性質が、ウェストミンスター神学者たちが1章で記した「みことばの一般的ルールに従って、キリスト者の思慮分別」を十分行使するだけの自由を与えているようです。

ほとんどすべての信者の集まりは、ある程度どのような統治の組織形式であっても、会衆的です。会衆が財産の権利を持っているというだけの教会であっても、ある意味で会衆的に統治された教会と言えます。そのようなケースの場合、もし彼らの指導者の決断に賛成できない場合は、会衆が単純にすべての事柄において息の根を止めることで、常に決めることができるのです。もし会衆が予算や牧師招聘の事柄に関して最終的な決定権があるなら、その教会は会衆的です。会衆が教理と戒規、争いと教会籍に関して最終決定機関であるということに加えて、新約聖書の中の模範的な会衆主義的な教会を持つようになるでしょう。会衆がリーダーシップ、スタッフ、そして予算に関する決定において、組織としてどの程度まで関与して決めることができるかは、個々の会衆内の決定に際しての思慮分別と自由裁量の問題なのです。指名委員会も役員会も新約聖書のどこにも書かれていません。財務委員会や小グループ・リーダーシップ・チームを見つけようとしても無駄です。聖書の十全性という信仰は、しかしながらそのような組織を禁じてはおりません。それはただ、彼らの権威を相対化しただけなのです。彼らが教会の本質ではないということは明示されています。彼らが会衆全体の英知に服従しなければならないのです。

Ⅲ. 会衆主義 - なぜ重要なのか？

なぜこれらは重要なのでしょうか？もし会衆主義が、単に教会におけるキリスト者としての共に生きることの現実ならば、私たちの課題はそれを作り出すことではなく、それを認識しつつ私たちの

教会生活を相応しく整えることにあります。私たちは神が創造した組織を尊重し、そうすることで神の英知に信頼すべきなのです。

私は、改革派陣営の人々がより長老主義的統治へと傾く傾向があるのを知っています。このことは時々、大変巧妙になされかつ中途半端なのです。例えば、私は信仰に篤い多くの会衆主義的なバプテスト教会を知っています。彼らは長老たちを置くように決める際に、教会の他の会員よりもより厳重で異なる基準の署名を長老たちに対して求めるように決議するのです。例えば、教会員全員には、ニューハンプシャー信仰告白を確約させ、長老たちにはそれに加えてフィラデルフィア（又は第二ロンドン）信仰告白を確約するよう要求するといった具合です。会衆の中の長老たちに模範となるべき成熟を願うのは健全ですし聖書的でもあります。それを達成するこの手段には、遺憾な点が残ります。聖書にそのような明確な見本が見つかるかと言え、答えは「いいえ」です。このことは、パウロがガラテアにおいて彼らにそうなるように命じたように、おそらく会衆を、教理に関して最終的な決定機関になることに、感情・外見両面ともにまだ覚悟ができていない状態のままにさせているのではないのでしょうか？自分自身で決断しなければならないのです。私は、確かに長老として奉仕する人には、より教理面での理解力をおそらく期待し願っていますが、それが新約聖書に見られる以上に教会が、より聖職者に頼るような姿勢に移行して欲しいとは思っていません。私の心配は、そのような形式的な要求が、そのようにさせてしまうのではないかということなのです。

皆さん。歴史の審判は、「いいえ」です。いかなる組織をも教会を誤りや衰退、貧困から防ぐことができないのは確かです。より中央集権化された組織体は、信仰的で生き生きと福音的な証しを維持する会衆主義よりも、悪い記録を残しているようです（会衆主義の記録は、特に教会の潔さと認知度が、信者洗礼の聖書的慣行と幼児洗礼の拒否を通して守られていく中で強められていったのです）。ローマ教皇は、自ら認めたキリスト者たちに大混乱をもたらしまし

た。司教は、全然上手くできませんでした。集会も会合も監督も宗
教会議も会議も、彼らがアドバイザーから統治者に立場が変わる
時、聖書が保証した権威の度を越してしまい、助けよりも問題をも
たらしてしまっただけです。

福音そのものが単純明快で、聖霊の働きによって新しく生まれた
私たちと神様との関係も現実のものであるので、福音を信じ神を知
る者たちの集まりが、単純に最も福音を擁護する者達だと言えるの
ではないでしょうか？それが私たちが聖書の中で見ることではあ
りませんか？

IV. 会衆主義—どのように作用するか

会衆派として、私たちはヘブル 1 3 章 1 7 節にどのように応じる
べきでしょうか？「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、ま
た服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがた
のたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人た
ちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。
そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」このこ
とは、著者がこれらキリスト者たちに、彼らの指導者の召使いの給
仕の手になるよう話したのではないことは勿論のことです。いいえ、
心に留めるべきテーマの重大さは明らかです。このことは、指導者
たちが彼らの働きに対してなす弁明と関係があり、その弁明は神に
対してなされるものだからです！

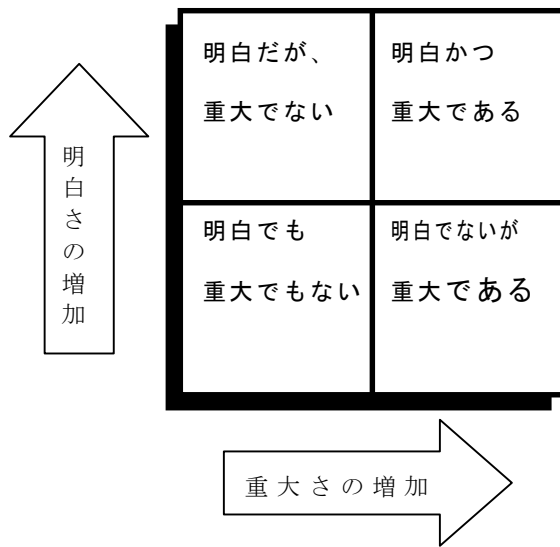
これは他に広い含みがありますか？私はそう思います。キリスト
者にとって、権威にある者の立場の重大さ、特に教えに関して心に
銘記しておくことは常に役に立ちます。ヤコブはヤコブ 3 章 1 節で、
「教師は、格別きびしいさばきを受けるのです」と述べているとお
りです。私たち長老がなすべき弁明は、最終的には教会にではなく、
神に対してなされるからです。

これらのことすべての重要性がお分かりでしょうか。私たち組織
のすべての責任において、私は、神が完全な委員会として、初めか
らずっと働くように私たちに任せていると提案しているのではあ

りません。神が指導者たちを私たちの間に置かれたことを、私たちは感謝すべきなのです。私たちは、彼らを認知し信頼すべきなのです。ここに見られる「従う」とか「服従する」のような単語は、普段あまり聞き慣れないことばです。しかし、それらの単語は新約聖書の中では、社会において、職場において、家庭において、結婚生活の中で、教会の中で神とともに人々に適用されているのです。そしてそれらは、私たちに与えられた役目として、確かな信頼を必要としているのです。

信頼は勝ち取るものだ、と言われますが、私にはそれがどういう意味かが理解できます。新しい政府が就任したり、新しい上司が職場に着任したり、または新しい友情関係が始まった時のことでもいいでしょう。私たちは、経験上それらの人々がどのように困難を切り抜け、どのように我慢するか、彼らが成功して益を受けるときに彼ら自身だけではなく、他者をも含んでいるかどうかを見たいと思います。ゆえに、信頼は勝ち取ると言われるのです。

しかしその態度は、せいぜい半分真実でしょう。同時に、私たちが人生において、不完全な人類の一員に、それらが家族や友人であっても、雇用主や政府の役人、または教会の指導者であっても、私たちが与えられるよう求められている信頼の類は、最終的には決して得られるものではないのです。それは、神の賜物として私たちに与えられているものと理解するよりは、むしろ信仰による賜物、つまり賜物自体をお与えくださる神への信頼として、賜物が与えられなければならないということなのです。教会において、信頼に足りない指導者、又は信頼する能力に欠けている教会員のどちらかを持つことは、深刻な霊的欠陥です。



では、私たちはどのように信頼すべきなのでしょう？ここで単純なグラフを想像してみてください。縦線は、明快さの増加を測るもので、横線は重大さを測るものを意味するとします。四分円は、1) 明白であるが、重大でないもの、2) 明白でも重大でもないもの、3) 明白かつ重大なもの、4) 確かに明白ではあるが、しかし重大ではないもの。

1) 明白だが、しかし重大ではないもの（例：建物の外観を紫色に塗るべきか？）－このカテゴリーの事柄については、単純に普通議論はありません。しかしながら「その他案件」の下では、何が浮かび上がるか私には全く検討も付きません。

2) 重大でも明白でもないもの（例：私たちの礼拝を祈りで閉じるべきか、静まりで閉じるべきか？）－これらの事柄においては、良い意味での会衆の霊的な議論は結構です。これらは、完全に不必要な事柄という訳ではありませんが、しかし最も重要でもありません。クリーニング契約から駐車場のアイデアに至るすべてのことは、この範疇に含まれます。

3) 重大かつ明白なこと（例：教会員になるために、私たちはイエスが完全に神であり、完全に人であったという信仰を要求し続けるべきでしょうか？）－これについてはほとんど常に合意があります。しかし、教理又は戒規に関して重大な誤りが長老によっ

てあれば、これが、新約聖書において使徒たちが常に会衆に向けて哀願していたことです。エルサレムの教会は分裂したでしょうか？コリントの教会は、神の聖さに対して、彼らの証しが失われ、キリスト者とはどういうことなのかということについて人々を墮落へと導いたでしょうか？コリントの教会は、本当の悔い改めを認識するのを拒否したのでしょうか？ガラテヤの諸教会は、福音をなくしてしまったのでしょうか？エペソの教会は、偽りの教えを受け入れたのでしょうか？新約聖書におけるこれら会衆としての行動の明らかな事柄においては、最も重大な問題が、危険に晒されているのです。

4) 重大ではあるが、明白でない（例：この人物を長老として認めるべきか、又はこの会員資格の処置を肯定すべきでしょうか？この重大な支出を充当すべきか、又はこの監督の決定は会衆としてのものなのか？）－これらは教会にとっては長老に尋ねるべき、最も重要な事柄です。多くの点で、この四分円の部分が、教会が委員会として行動しようとするよりも、又は牧師、又はなんらかの委員会の議長が単独で決めるよりも、長老たちが特に最もよく教会に仕えるところです。

教会員の基本的な姿勢として必要とされているのは、指導者を信頼するか、又は彼らを交代させるかのどちらかなのです。しかし、彼らを認めておきながら、従わないと言うのはやめて欲しいと思います。もしあなたが推薦状について長老たちと同意できないならば、正当な理由を持つべきです。行って、彼らとその件で話をしなさい。聖書以外では、あなたが、あなたに関して長老たちについての主要な情報源なのです。教会の指導者を邪魔するよりもむしろ、長老のいない所で話をし、密かに会って、そしてあなたの指導者を励ます計画を立てなさい。教会指導者の働きが重荷ではなく、喜びとなるようにしなさい。ヘブル人への手紙の著者が述べているように、このことが、指導者があなたにとって祝福となることなのです。

200年前にスコットランドの牧師たちの教師であったジョン・ブラウンは、彼の学生の一人で、小さな教会に新しく任命された人に宛てて、まるで父親のように助言を書き記した手紙の中で、次のように書いています。

私は、あなたの心の中にある空虚さがわかる。そしてあなたの教会が、あなたの周りの兄弟たちのと比べて小さいことに屈辱を感じているであろうことも。しかし、老人のことばの上に、あなた自身を確信させなさい。彼らのことをあなたが主キリストに弁明するとき、神の裁きの座において、あなたは十分であったことを思うであろう。

今日いくつの教会が、自己中心的な指導者たちと頑固な会員たちの悪魔的組み合わせのもとに衰えているのでしょうか？そのような会衆は、常に小さくなり、萎れていくのです。幾つかの教会は、すばらしい会衆を与えられていますが、しかし彼らは間違った人々を、彼ら自身をよくても軽率な者、最悪卑しい山師として人前に姿を現す牧師や長老として認めてきたのです。私たちのあまりにも多くの者が、そのような教会にかかわってきたのです。ある教会にはすばらしい、信仰深い指導者がいます。しかし会衆が、自己満足の自己中心的な人々であふれかえっているのです。もしそのような牧師が留まり、忍耐強く教えるならば、私が思うに、会衆は最後の審判の日に、キリストの群れの良き牧師の下で傷つけたことに対して重い裁きが下るでしょう。しかし、健全な教会は、不完全な教会員と指導者でいっぱいであるにもかかわらず、信仰的な主導権と奉仕、神聖な教えと従順、信仰深いリーダーシップと教会籍によってしるし付けられるのです。

それが、今から見るところの教会籍の広い考えです。

第4章 教会籍（メンバーシップ）

今日多くの人々にとって、教会の教会籍の全体の考え方が、逆効果を招いているらしいということを認めるところから始めます。何人かは入り、他の人々はある、とすることは不親切で、エリート主義ではないでしょうか？それは聖書的ではなく、非キリスト者的であるとまで言うことができるでしょうか？使徒2章47節に次のように記されています。「主も仲間を加えてくださった」（すなわち、教会に対して）。救われた人々をです。そこにしっかりと書かれているのではないのでしょうか？同じ使徒8章では、エチオピア政府の宦官がパレスティナ地方を移動中で、彼は馬車で帰路の途中、預言者イザヤの書を読んでいるところでした。御霊に導かれたピリポは、彼をさえぎり、話しかけました。その男は信じそして洗礼を受けました。その場合、エチオピアの役人は、自動的に教会の会員になったのでしょうか？

I. 献身恐怖症と教会籍

これらすべてのことは、今日多くの人々が考えている以上に重要な問題です。実は、このことに行き着くことが、教会を甦らせ、自分の国で宣教し、世界中にキリストの言い伝えを広め、そして神に栄光を帰する大切なステップなのです。

アメリカの福音派は、この事柄に関して再考し再熟慮するために死に物狂いになっています。特に私たちの教会の交わりの群れである南部バプテスト会議はそうです。数年前に行われたある南部バプテストの一つの調査によると、典型的な南部バプテスト教会は233名の教会員を擁しており、そのうちの70人が日曜の朝の礼拝に出席しているとのこと。ここで、私の質問はこうです。他の163名はどこに行ってしまったのでしょうか？彼らはみな病気で自宅にいるのか、家で療養中か、大学に行って不在なのか、休暇中か、又は軍隊にいるのでしょうか？おそらく何人かはそうでしょう。しかし163人全員が、本当にそうなののでしょうか？このことは、キリスト教についてこの世に対して何を伝えているのでしょうか？これは、人生におけるキリスト教

の重要性の意味について、私たちは何を理解しているのでしょうか？彼らがもし、数ヶ月いやもっと長く教会から遠ざかっているとしたら、そのような状態にいる人々の霊的状态はどうなっているのでしょうか？彼らの教会欠席は、本当は私たちの問題ではないのでしょうか？このことを理解するために、まず最初に次の質問を問う必要があります。「教会とは何ですか？」

II . 教会とは何ですか？

「教会」という単語は、宗教の組織的な単位として言及していません。それは、仏教の教会やユダヤ教の教会を指しているのでもありません。「教会」は本質的に建物を指してもいません。それは、第二義的な意味ではそうです。建物は、単に教会が集まる所であり、従ってニューイングランドのピューリタンは教会の建物を、「教会堂 (meeting house)」と呼んでいました。初期のニューイングランドの教会は、外側からは大きな家のように見えました。それは、教会が集まるまさしく家でした。

新約聖書によると、教会は主として信仰を告白し、神の栄光のみを現すために、キリストによる唯一の信仰を通して神の恵みによってのみ救われたという形跡を示す一定の人々の集まりでした。これが新約聖書が示す教会で、建物ではありませんでした。初期のキリスト者たちは、教会が始まってからおおよそ 300 年もの間、いかなる建物も持っていませんでした。しかしながら、初期の時代から地域のキリスト教の教会は、明らかに特定の人々の集合体でした。一定の人々がこの集会を構成していると知られており、そして他の人々はその外側にいました。従って、マタイ 18 章と I コリント 5 章でパウロによって教えられた叱責は 個々が政治的な共同体ではなく、異なる社会的な共同体から除外されるのを期待しているのです。初期のキリスト教会に、実際の会員名簿が存在したかは確かではありませんが、彼らは持っていたことでしょう。その概念は、知られていないものではありませんでした。初代教会が、やもめの名簿を持っていたことを私たちは知っ

ていますし、神ご自身がいのちの書に記された、普遍的な教会の人々のリストを持っていることを述べています。そして私たちは、Ⅱコリント 2 章から、パウロとコリントの人々が、彼らが教会の一員であると理解している一定の人々の大多数を明確に突き止めることができる、ということです。例として、彼らは被選挙資格のある者たちでした。

明確に定義できる共同体の人々の概念は、旧約聖書と新約聖書の両方において、神の働きに対して主要なものでした。神がノアとその家族、アブラハムや彼の子孫、イスラエルの国、新約聖書の時代の教会に対して働かれて以来、神は彼の特徴を現すために、明確で異なった人々を支えるように選んできたのです。神の意図は常に、彼を信じるはっきりとした者とそうでない者との間に鋭く鮮やかな境界線があるようにとのことでした。

この集められた共同体としての教会の概念は、バプテスト派キリスト者を他の多くの人々と区別するものです。宗教改革の時代において、国と教会の関係は親密かつ込み入ったものでした。教会や又は国の戒規は、しばしば他からも同様に影響を及ぼしました。またある一定の政治的管轄区域の範囲内で生まれたものは、誰であっても国教会の一員になることができるとされていました。宗教改革期の信じた者の洗礼の回復は、バプテスト派が、個人の信仰告白と回心の証拠を伝える者たちの会衆としての新約聖書の教会を復活させたことで、そのまさに根幹において、この教会と国との親密な関係を脅かしたのです。

ある興味深い歴史家に対するサイド・ノートー自発的に誓約した信者の共同体としての教会は、特にバプテスト派が自分たちの国における宗教の自由の獲得において、重要な役割を果たしたのです。このことにあなたは驚くかもしれません。今日幾人かの人々は、バプテスト派は無知な、重苦しい、宗教的全体主義の勢力と見ているからです。しかし、歴史的にみれば、そのことは断じて違います。あまりの皮肉です。ある意味においては、私たちの頑迷さについて、ある一部の人たちが話したり書いたりするときに用いている自由は、私たちバプテスト派のキリスト者たちが、この国において三世紀に渡って擁護して

きた、まさに教会の理解によって守られているのです。

教会は、最終的にあなたにとって、そして肉体的、血縁の子孫、又はこの国の市民の力によって、あなたの家族のすべての教会員にとって、何の価値ありません。新約聖書が教えていることは、教会は信者のためにあるということです。ですから私たちは、教会が自由に運営することができるように自由を提供してくれるこの国で、法律を擁護しているのです。アメリカにおいてバプテスト派は、新しく確立した教会を擁護しているのではありません。なるほど私たちは、それに断固と反対する者たちです。私たちの教会理解は、まさにそのことを許してはいないからです。私たちは、イエス・キリストの福音において、互いに自由に協力し合う諸教会を通じて、国の福音化を擁護しているのです。そして教会とは、キリストと、お互いに献身したキリスト者の地域の集まりなのです。

Ⅲ. なぜ教会に加わるのか？

このテーマは教会にとってそして今日の個々のキリスト者にとって避けては通れない問題です。このことは、神の弟子としてキリストが、あなたを招いてくださるとはどういうことなのかを理解する上でも重要なテーマなのです。教会に加わることは、あなたの良い働きや、教育、教養、友情、寄付金、又はあなたの洗礼があなたを救わないのと同じように、あなたを救うものではありません。キリスト者でない人は教会に加わるべきではありません。しかし、キリスト者になるとはどんな意味を持つのかについてもっと学ぶべきです。すでに信仰を告白している方々にとっては、次の質問を投げかけたいと思います。キリスト者生活を送ることは、どういう意味を持つのでしょうか？キリスト者は単独で生きるものなのでしょうか？

私たちの教会に対する必要を強調するために他にも多くのふさわしい質問が考えられますが、ここでは、福音を宣教し、キリスト者生活をかたどる教会に加入する5つの真の理由を提示したいと思います。

1) 自分自身の確信のため

あなたは救われるために教会に参加するべきではありません。かえってあなたが救われたことを確かめる助けのために、教会に加わるべきです。ヨハネの福音書でイエスが述べたことばを思い出してください。

「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。…もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。…わたしがあなたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。…あなたがたがこれらのことを知っているなら、それを行うときに、あなたがたは祝福されるのです」(ヨハネ 14:21; 15:10、14; 13:17)。

教会加入に際して、私たちは、自分の口で話すことに従って生き、互いに責任をもつように自分たちの兄弟姉妹にお願いするそのような立場に自分を置くべきです。ときには、彼らが自分たちの生活において、神の働きを見たという風に私たちに思い出させてくれるように。また他の時には、神への服従から遠ざかっているような時に刺激を与えることで、励ましをお願いするのです。地域教会におけるあなたの教会籍は、あなたの人生が救われたことの証拠を与えている、そのことの会衆としての公の証なのです。

地域教会における教会籍は救い自身ではなく、救われていることの生き写しなのです。もしそこに何の反映もなければ、どうして救われていることを、私たちが知ることができるのでしょうか？

教会の会員になるにあたって、私たちはお互いに知り、また知られるように、互いに手と手を取り合い、神が私たちの人生に働いていてくださることを、私たちが思い出す必要がある時や、又は私たちの言動に大きな食い違いがある時に注意を促すように、互いに助け励まし合ったりするのです。

2) この世に宣教するため

あなたが教会へ加入する目的は、世に福音宣教をするためでもありません。私たちは本国においても、海外においても、共にさらに福音を広めることができますのです。私たちはこのことを、他の人に良き知らせのメッセージを共有することと、他の人がそのように（ことばでもって福音を伝えることを）助けることで、ことばで宣教をすることができますのです。地域教会はもともとは、宣教組織なのです。

私たちは、孤児や病気の人、子供たちや恵まれない人々の物質的な必要を満たすことを通し神の愛を示すことで、私たちの行動を支援するのです。教会における交わりを通して、世界中に福音を伝える助けをし、また緊急の物質的必要がある災害援助や教育、他数え切れない奉仕をする人々を助けるために、私たちは何百万ドルのお金と何千ものボランティア達を供給するのです。私たちは不完全ではありますが、もし神の御霊が私たちの間にいて真実に働いてくださるのなら、神は、彼の福音の真理を他の人々にも示す助けをするために、私たちの人生とことばを用いてくださるのです。これは、今特別に与えられている役割であり、天においては無いものです。これが、神のご計画の一部であり、神の福音をこの世に宣べ伝えるための、今教会に与えられている特別な特権なのです。

3) 偽の福音を摘発するため

神は偽の福音を摘発するために、このような方法で共にいるように意図されました。キリスト者として共に集まることを通して、私たちはこの世に対してキリスト教とは何であるかを示すのです。私たちの教会では、聖書的にキリスト教であると称していながら、実際はそうではない説教やイメージの正体を暴露しています。福音的な教会の会員ではない人々の何人かが、同じ福音を本当に信じていないので、そのようではないと断定はできない状況があります。教会の使命の一部分として、真の福音を認識し守り、その悪用を防ぐということが挙げられます。福音宣教における私たちの仕事の一部には、イエス・キリストの福音を積極的に提示するだけでなく、キリスト教会において

なされていて、現実には福音を強めるというよりはむしろ混乱させているような、ひどく混乱し歪んだ証しを取り除くことも含まれていることを認識する必要があります。

4) 教会を教化するため

教会に加入する4つ目の理由は、建徳(edification)又は教会を建て上げることです。教会加入は、間違った個人主義に反撃を加え、キリスト教の生まれながらの団体性について認識する手助けをしてくれます。新約聖書を学ぶと、私たちのキリスト者の生活は、互いに対する配慮と関心を含んでいることがわかります。それは、キリスト者になることの一部であります。そして不完全ながらそのことをすることで、私たちはこのことに献身すべきなのです。私たちは、義において、愛について、無私なことやキリストの似姿においても、子供っぽい歩みを励ますつもりです。

私たちの教会の教会員クラスにおいて、私はよくある友人の話をしました。彼は私が会員であった教会の礼拝に出席しながら、大学のキリスト教の働きに従事していました。彼はいつも賛美の後に滑り込み、説教の間だけ席に座り、そして礼拝を後にしていました。ある日、私は彼になぜ全部の礼拝に出席しないのか、と尋ねてみました。「ええと」、彼は次のように答えました、「説教以外から何も得るものがないからさ。」「教会に加わるということを考えたことは今までないの?」と私は応答しました。彼にとってその質問は、ばかげたものでした。彼は、「なぜ教会に加入しなければならないんだ?もし仮に加入したら、彼らは霊的に私を遅めるだけだ。」彼がこのように答えた時、私はキリスト者であるとはどういう意味なのか、彼が本当に理解しているか疑問でした。私は返答しました、「神はおそらくあなたが他の人々と腕を組み合うことを望んでおられることを、今まで考えたことがある?確かに、彼らはあなたの歩みをゆっくりさせるかもしれない。しかし、あなたが彼らを早める手助けができるかもしれないじゃないか。もしかしたら、そのことは、キリスト者として私たちが共に生きるために、神が与えてくださったご計画の一部かもしれない!」

5) 神の栄光を現すため

最後に、キリスト者は神の栄光を現すために教会に加わるべきです。ペテロが初期のキリスト者に記したことは、「異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」(I ペテロ 2:12)。驚くべきことではありませんか？ペテロは彼の主の教えを聞いたと言う事ができるのです。あなたは、イエスが山上の説教で教えられたことを思い出すことができるかもしれません。「あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい、」(マタイ 5:16)。驚くべき事は、神が私たちの良い働きによって、栄光をお受けになるということです。もしそのことが、私たち個々人の生活においても真実であるならば、神のことばが言うように、キリスト者として共に生きる私たちの生活についての場合もそうだとわかるのにさほど驚くべきではありません。神は私たちが互いに愛し合うことで、私たちがキリストに従う者として同一であることを示そうとされたのです。ヨハネ 13 章の 34 節・35 節でイエスが述べた有名なことばを思い出してください、「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるためです。」私たちが共に生きるということは、私たちが彼のものであることを示し、彼に賛美と栄光を捧げるためなのです。

VI. 教会籍のしるし

私たちが墮落した世に生きていて、少なくとも部分的にせよ世と結託しているのを考慮すれば、特定の教会の誰が会員で誰がそうでないのか、どのように決めたらいいのでしょうか？誰が入っていて、誰が外にいるのかを。

まず最初に、教会員になるためには自分の罪を告白することで信仰者として、そして罪の悔い改めとキリストによる唯一の救いに信頼することの信仰告白による洗礼を受けていることが必要です。聖書はマタイ 28 章でイエスははっきりと弟子になる者に洗礼を命じている記録があります。使徒の働き全体を通して、弟子たちがこの教えを理解し服従していたのを見ることができます。

私たちは、洗礼がキリストに在る信仰の自覚のある告白をした者に制限されているものであると信じます。このことのゆえに、幼児洗礼を実施することは、教理的に誤りであると信じているのです。この信条を裏付ける 5 つの理由を述べます。

- 1) 誰も信仰者の洗礼に否定する者はいません。議論があるのは、幼児洗礼です。
- 2) 幼児洗礼に関して新約聖書には明確な例がありません。
- 3) 新約聖書には、幼児洗礼についての明確な教えはありません。
- 4) 新約聖書にはどこにも、肉体的な割礼と肉体的な洗礼を並行して教えてはいません。実に、コロサイ人への手紙 2 章では、まさに霊的割礼と肉体的な洗礼を並行して述べており、すなわち、肉体的な洗礼によるこころの割礼のことを指しています。このことは、生まれ変わったしるしがある者だけが洗礼を受けるという考えを支持します。
- 5) 歴史的には、幼児洗礼は新約聖書にはなく、2 世紀初期のキリスト教の礼拝についてのマニュアルであるディケーダにもありませんでした。1 世紀には確かな記録はなく、2 世紀にさえもありませんでした。3 世紀に入ると、幼児洗礼に関するいくつかの記録がありますが、しかしながらそれは、幾人かの改革派プロテスタントの友人が教えているところの幼児洗礼ではありませんでした。それはどちらかということ、現在ローマ・カトリック教会が教えている、洗礼は私たちの生まれ変わり、回心と救いに実際に作用する、というものでした。改革派プロテスタントの一部の人が教えている幼児洗礼の概念は、実は 1520 年代に、他のプロテスタント

信者が信仰者の洗礼について再度紹介するまでは、表には出てきませんでした。救いとも回心でもない幼児洗礼の概念を考え出したのは、正しくはハルドリッチ・ツヴィングリッチでした。

パウロが彼の手紙で想定していたことは、洗礼を受けた者は新しいのち（ローマ6章）を経験し、心に割礼を受けた（コロサイ2章）者であるということです。洗礼とは、それ故、教会における会員籍には必要不可欠なのです。なぜなら、もしある人が教会から入会を認められたならば、そのようなキリストのはっきりとした命令を拒否しさえすればよく、キリストに従うと言っているがまだ洗礼を受けていない人は、単にキリストの命令に従うと決心するまでは、直ちに戒規を執行するか、もしくは教会は彼らがキリストに従っていると主張する保証を取りやめるかの、どちらかなのです。イエスがあなたにするように求めていることで、洗礼よりも簡単なことは、他にないでしょう。

教会員になるということは、主の聖餐に与ることを意味すべきです。これは、本質的にはキリスト者として留まっていることを意味します。聖書はイエスが彼らの弟子たちに、主の晩餐でパンとぶどう酒を取るように命令したとき、パンについてのイエスご自身のことばは、「わたしを覚えて」であり、杯について彼は、「これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい」でした。私たちは、パウロのIコリントから、このことがなされ、それ以降も主を告白するキリスト者によって継続してなされてきたことを知っています。主の晩餐における教会の様子は、キリストによる信仰によって養われている人々の集まりとしての教会の象徴的な姿なのです。

教会員になるということは、定期的に公の集会に出席するということであるべきです。出席するということは、おそらく互いにとって最も基本的な務めなのです。しばしば引用されるヘブル10章25節では次のように記されています、「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

もし新約聖書が教会のイメージを建物として用いているのなら、私たちは、教会のレンガに違いありません。もし教会がからだなら、私たちはその教会員です。もし教会が信仰の家族であるならば、私たちはその家族の一部であると考えられます。羊は群れにおり、枝はブドウの木につながっています。聖書的に、ある人がキリスト者であるならば、その人は教会の会員であるべきなのです。そしてこの教会籍は、単に私たちがかつて行った声明の記録でも、又は親しみのある場所への愛着でもありません。それは、生きた献身や、定期的な出席の生き写しです。そうでなければ、それは無価値であり、無価値よりも悪く危険であります。

キリスト者になるとはどういう意味なのかについて、係わり合いのない「会員」は、本当の会員とキリスト者ではない人々とを混乱させます。そして私たちが彼らを教会の会員として留めているのを許していれば、私たち「活動的な」会員が、自発的に「活動的でない」会員に、何の奉仕もさせないようにしているのです。なぜなら教会籍は、個人の救いを教会として保証したものであるからです。私たちはこのことを理解する必要があります。教会における教会籍は、個々人の会員の救いについての教会組織としての証明なのです。しかしながら、どうすれば会衆は、教会に来ていない人々が信仰のレースを走っているかどうかを、公正に証明できるでしょうか？

私たちの教会では、単に出席から抜け落ちている人たちに絶えず注意を払うようにしています。彼らが教会に戻るよう努めるか、さもなければ彼らを特別に世話するようにはしています（もし彼らが軍隊や大学にいたり、又は病気のために家を離れることができない場合はです）。もしその人が教会に出席できるのなら、私たちの意思は、彼らが一刻も早く、この教会籍から外されるべきであり、そうすることで彼らは定期的に出席できる所へ加わるように励まされるのです。

教会における教会籍のもう一つの明確な見方は、私がすでに述べた戒規についてです。マタイ18章におけるイエスの教え、又Iコリント5章やガラテヤ6章の中のパウロ教えから、地域教会の家族の機能

の一つで避けては通れないことは、教会籍から自らは除外されたくないと思っている人々を、締め出すという境界線を描くことです。この必要不可欠でおろそかにされがちな話題についてのより多くの情報は、ジェイ・アダムスの著作で、教会戒規のハンドブック（Zondervan,1986）か、マーク・デバー編集の書籍「政体」（Polity）⁸を参照ください。アダムスは長老派の視点から、この事柄にアプローチしており、それに対して二冊目の本は、初期バプテスト派の10本の論文を集めたものです。これら二冊の本は、別々の教会方針から、戒規の課題について取り扱っていますが、二冊の間には、実質的な同意があります。それぞれの著書は、すべての牧師又は教会指導者にとって、有益であるに違いありません。

愛も、教会の会員たちの間で見られるべき特徴です。ヨハネ13章でイエスは彼の弟子たちに語られました、「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです」（ヨハネ13:34,35）。もしある人々が、他のキリスト者と献身的な愛の関係にないのに、自分たちのことをキリスト者だと適当に呼ぶように決めたなら、彼らはIヨハネ4章20節を注意深く考慮すべきです。「神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません」。私たちは自分のことを思い違いをし、自らの美德を過大評価する傾向にあるとすれば、神が自分たちの誇りや盲目さについて、私たちにそのような自己吟味を与えてくださったことを感謝しようではありませんか！キリストの愛を与え受けることは、聖書がはっきりと教えているように、教会の会員になることを意味しており、そして私たちはこのことを、働きの支援のために収入の十分の一を捧げることから、初対面の人に暖かく挨拶をすること

⁸ Mark Dever, *Polity: Biblical Argument on How to conduct Church life* (Center for Church Reform), 2001.

など、あらゆる方法で実践するのです。

地域教会において、実に他にも多くのことが、このことから派生しています。

例えば、私たちは、教会の会員に信仰告白の声明文と誓約書に署名をするよう求めています。声明文とは、私たち教会において、どのように行動するかを規定したものです。私たちは、教会員が教会の為に祈り、教会を支援するために経済的に捧げ、そして彼らが教会の働きに従事することを期待しています。洗礼、主の晩餐、礼拝出席、戒規、そして愛は、地域教会の会員籍の核心となるものです。

なので、キリストにある友よ。ただ単に教会に出席しないで（出席すべきではありませんが）、教会に加わりなさい。他のキリスト者たちと腕を組み合いなさい。あなたが加入できる教会を見つけ、そうしなさい。そうすれば、ノン・クリスチャンらが福音を聞き、わかるようになるでしょう。そうすれば信仰の弱いキリスト者たちが配慮され、信仰の強いキリスト者たちのエネルギーが良い方法で運ばれ、教会指導者が励ましを受け、助けられ、ゆえに神が栄光を受けるでしょう。

結論

コリントに向けたパウロの最初の手紙は、あなたが教会として共に生きる生活がどのようなものかをもっと理解したいならば、読んで瞑想するのに素晴らしい手紙です。その中であなたが見つけるものは、教会として私たちは、特に聖さによって、一致によって、そして愛によって特色付けられるということです。

ではなぜ教会はこのような特徴を持っているのでしょうか？それは教会の特徴が、神のご性質を映し出すものだからです。私たちは本質的に聖であり、一致して親密な関係にあります。なぜなら神は、これらすべてを兼ね備えたような存在だからです。私たちは聖くなるように召されています。なぜなら神は聖だからです。私たちは一致するよう召されています。なぜなら神は一つだからです。私たちは愛されるよう召されています。なぜなら神は愛だからです。

最初に、私たちはこの世に対して見慣れておらず、神に対して特別だという意味において、聖くあるように召されています。私たちは、汚れのない者として召されているのです。聖さは教会を特徴付ける属性であるべきです。それは、トレードマークとなるもので、私たちの間で共有され特徴的なものなのです。もし誰かが私たちの特定の教会を注視するなら、彼らは、「聖い共同体だ」と思うことでしょう。これが意味することは、自らを義とし取り澄ました人々の群れではなく、より良い、より人間的で神を褒め称える生き方によって、行い自体が証しする希望ある共同体のことなのです。それゆえに、教会の会員籍や教えや戒規など、これらすべてが重要なのです。神が聖なるゆえに、私たちも聖くあるべきなのです。

また、私たちは一つであるべきです。なぜなら神は唯一のお方だからです。I コリント 1 章で、パウロが教会における様々な分裂や分派を聞いたことによる悪い評判から始めた時、使徒がその問題に神学的に取り組んでいることはとても興味深いことです。パウロが分裂の事実について I コリント 1 章 13 節で、彼らに持ち出した質問はこうです。「キリストが分割されたのですか？」なんとふさわしい質問でしょ

う。そのことを考えたとき、地域教会でその存在に他の基礎を持っているところはありません。パウロが教会の分裂に目を向けてから、次の質問をしました。「キリストが分割されたのですか？」

その質問の背後にある力強い神学的仮定は、教会がキリストのからだである、ということです。その概念は、私たちが神を写し出さなくてはいけない、という重大な責任を思い起こさせます。教会内の分裂は、ことの重大さを増加させます。なぜなら、いかなる不神聖さや非難によっても、それらが私たちがイメージしようとするお方に写し出されるからです。私たちの間にある不一致は、神について、又神がどのようなお方かについて、全くの偽りを現していることになるのです。

パウロが I コリント 12 章 27 節で述べているように、「あなたがたはキリストのからだであってひとりひとは各器官なのです。」パウロはどこからそのような考えを得たとお思いですか？私は、彼が回心したまさにそのときに考え付いたと思っています。使徒 9 章で、パウロは復活の主の表れによって立ち止まった時、彼はダマスコのキリスト者たちを迫害しに行く途中でした。キリストは彼に何と言ったのか？「サウロ、サウロ。なぜキリスト者を迫害するのか？」いいえ。「サウロ、サウロ。なぜ教会を迫害するのか？」いいえ。彼は、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか？」と言ったのです。このことは、いかにイエスと教会が、親密であるかを語っています。イエスは教会を彼のからだとして、そして私たちをそのからだのメンバーとして見なしているのです！

I コリントで、キリスト以上に自分の罪を犯している人々を「除きなさい」といわれている主な理由の一つは、私たちが一つとされているからなのです。一致は教会の特徴のひとつであるとみさなれています。この一致が、ユダヤ人と異邦人（I コリント 7:19）の古い分派を、この世のほかのすべての分裂とともに超越するのです。これが、パウロが教会の分裂についての報告を聞いたときに動揺した理由です。彼らの一致の祭りである主の晩餐の時でさえ、彼らはまとまっていませんでした。教会が現世的な理由からばらばらになるとき、私たちはほ

かのことについて新たなことを始めるのです。それは、現代風の音楽の教会であったり、又はこの牧師の教会であったり、ホーム・スクーリングの教会であったり、民主主義の教会であったり、ブルー・カーペットの教会であったりします。これら実用的なものすべては、真のキリスト教の一致とは異なるものです。教会は一致するように召されているのです。

最後に、私たちは互いに愛し合うべきです。なぜなら神は愛だからです。私たちが一致するための唯一の方法は、愛の中にあります。I コリント 8 章 1 節で、パウロは次のように記しています。「私たちはみな知識を持っているということなら、わかっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。」これがパウロの主張する愛と他者への思いやりが、私たちが何をすべきかを支配するように述べられ、8 章から 14 章の中で大きく逸脱する箇所の拠り所となりました。パウロは、心の底から神の教会に対する愛を持っていました。そこで彼は 14 章 26 節で次のように書いています。「すべてのことを、教会の徳を高めるためにしなさい。」そして 31 節で、「すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができるのです。」パウロは、教会の健康状態にとっても敏感であったのではないのでしょうか？ 15 章の 9 節を見て、彼の経歴を思い出せば驚くことではありません。「私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。」確かに、なぜ神がパウロのような人物を用いて、16 章 14 節で述べているように、「いっさいのことを愛をもって行いなさい。」のような教えを、私たちに伝えたのか理解できます。

キリストが自らの血潮を注ぎかけ、私たちのためにその御からだを捧げることによって示した愛を考えてみなさい (I コリント 11:23-26)。キリスト者たちは、このことを初期の時代から知っていました。I コリント 15 章 3 節から 5 節において、初代教会の信条のようなものを見ることができます。そして 15 章 3 節で、「キリストが私たちの罪のために死んでくださった」(参照:ローマ 5:6 - 8;ガラテヤ 2:21;I ペテロ

3:18)。

愛についての特に興味深い一つのは、彼らが持っているパウロが要求した他の教会に対する関心です。手紙のまさに最初の所から、彼らはこのことを思い出さずにはいられませんでした。パウロはコリントの人々に「至るところのすべての人々とともに」(Iコリント 1:2)と記しています。パウロも彼らに対して、このような方法で行動しました。Iコリント 4章 17節で、パウロが彼の愛するテモテを、彼らのところに送っていることがわかります。それから、最後の章の 16章 1節から 4節では、パウロが彼らに、「聖徒たちのための献金について」書いています。これら初期のキリスト者たちは、愛において、他者を助ける術を見つける努力をしました。私たちの教会は、そのような愛で特徴付けられているのでしょうか？教会は互いに愛し合う所なのです。なぜなら神は愛だからです。

教会はこの混乱した、罪深い自己中心的な世の只中であって、神の愛を映し出すために存在します。私たちはどうでしょうか？教会として私たちは、神の特徴を映し出しているのでしょうか？

これが、私たちが教会について新約聖書の中で見つける高尚なことばの類なのです！エペソ 5章 25節で、「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身を捧げた。」と書いてあるとおりです。使徒 20章 28節では、神が彼ご自身を彼の教会のために捧げた、と教えています。神がご自身の血をもって買い取られたとも。もし私たちが彼に従う者であれば、キリストがご自身を捧げたように、私たちも教会を愛するでしょう。なぜ神は教会をそんなにもケアするのでしょうか？なぜなら神はそのことを通して、彼ご自身に栄光を現したいと願っているからです。

私にとって新約聖書の中で最も興味をそそられることの一つは、Iコリント 15章 19節で、パウロが次のように述べているところです。「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての中で一番哀れな者です。」これは、間違った満足をいただいているキリスト者たちに対する、重要な声明文です。現

代のあまりにも多くの教会が、この人生において、すべての苦しみは償われ、すべての犠牲は報いを受け、すべての神秘は説明されるとするキリスト教の見解を提示しています。しかしこれはパウロが教えた福音ではありません。事実上、これは私たちの主キリストの福音ではありません。そしてこれが、私たちの教会の福音であってはならないのです。もしキリスト者の人生を、この来世の側で評価するなら、つじつまが合わなくなるでしょう。キリストのも、パウロのも。そして私たちのものです。

最後に、お分かりのようにパウロは福音のために（Iコリント 9:23を見よ）すべてのことをしました。それが、私たちの教会が何かをするときの動機でしょうか？もし私たちが、神が望んでおられ、神に栄光を帰するような会衆に召されているなら、私たちは、私たちの福音のメッセージから互いに対する犠牲的な愛に至るまで、すべてにおいてこの最後の希望を重視する会衆になるべきです（ヘブル 10:34を見よ）。そのような状況にあつてのみ、私たちは偉大なる神の信仰深い代理人となることができます。

お分かりのとおり、これが教会において神がなさることなのです！Iコリントで、パウロが述べたことは、神は「この世の取るに足りない者や見下されている者を選びました。すなわち有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。」（1:28 - 29）神がなぜあなたや私のような人々や、教会として明らかに弱いと思われる事柄を用いているかお分かりですか？なぜなら神は彼ご自身を、いかなる方法においても覆い隠そうとはなさらないからです。

数年前に参加した会合で、私は南カロライナ州コロンビアにあるファースト・プレスビテリアン教会のマーク・ロスが次のように述べたのを聴きました。「私たちは神の第一のしるしの一部分のひとつです。」彼は続けて、「パウロの教会に対する最大の関心事は[エペソ 4:1-16]、」彼が言うには、「神の栄光を証明し映し出すことで、サタンの領域におけるすべての中傷、それは神のために生きることは無意味であるとする

る中傷に対して、神のご性質の正しさを証明することなのです。神は彼の教会に、彼ご自身の御名の栄光を託されました。あなたの人生の境遇は、神がご自身の属性を映し出し、現すために、あなたにお与えになった機会なのです。」

もし私たちが注意深くなければ、私たちの個人主義が、罪を大目にみる生半可なキリスト者の聖さの隠れ場に用いられてしまいます。私たちの自己中心性は、福音についての不一致を表面的に取り繕い、より些細なことに一致するような生半可なキリスト者の一致を導くのです。私たちの肉の思いさえも、長くいるからといった家族の感情を持つことの、単なる情である生半可なキリスト者の愛を認めることができるのです。しかしながら、友よ。これらのことは、どれも私たちの教会を、特徴付けるべきではありません。なぜなら第一に、これらすべては神について、嘘をついているからです。それらは神について正しく提示していません。真の聖さは戒規を含むものなのです。そして真の一致は、キリストにのみ存在するのです。教会の多様性が、このことを証明するでしょう。真の愛は、感情や生まれながらの関係を越えるものでなのです。それは、キリストのゆえに、見知らぬ人のところへ出かけて行きます。これが教会においていかに神の栄光が映し出されるかなのです。これが教会が真の意味で繁栄する唯一の道なのです。

では私たちは、どのように神の栄光を映し出しているのでしょうか？神がみことばによって啓示された模範に従って、教会を整えることによってなのです。聖さと一致と愛のある生活によって、神のために生きることなのです。これが、教会が専念することなのです。あなたはどうか？